

名古屋芸術大学

後援会報

第48号 2010年3月31日発行

卒業生に贈る言葉



後援会長
菅沼 行生

ご卒業おめでとうございます。
皆さんに、陶芸家・河井寛次郎氏の言葉を贈ります。

「過去が咲いている今

未来の蕾(つぼみ)で一杯な今」です。

現在の皆さんを木に例えると、どのような木になっていますか。枝を広げて葉が生い茂っていますか。それとも大きな花が咲いていますか。

これまでの4年間のがんばりや世話の仕方により今の木の姿となっています。

大きな花を咲かせている人も小さな花をたくさんつけている人も「過去が咲いている今」の姿です。

そして、気付いていないかもしれませんが、みなさんには何年後かに咲く蕾がすでについています。1年後に咲くのか、3年後に咲くのかは分かりません。それが「未来の蕾で一杯な今」の姿です。

蕾がついていても、この蕾はしっかりと世話をしないと開かないかもしれません。これからの世話が大事です。大学の4年間で学んだことを生かして、大きな花やたくさんのお花を咲かせるように、水を与え、日光に当て、肥料を与えて続けてほしいと思います。それが30代40代になったときに花開くことになるでしょう。

蕾をたくさんつけているみなさん、一瞬一瞬の今を大切に、これからたくさんのお花を咲かせてください。

保護者の皆様、お子様のご卒業を心よりお祝いを申し上げますと共に、今後のご活躍をご祈念申し上げます。4年間、後援会へのご協力ありがとうございました。これから新たなご苦労が始まると思います。お子様の幸せを願いつつ精神的な支えとなつていただき、自立した大人となるよう温かく見守っていただきたいと思います。

最後になりましたが、本大学の教職員の皆様、親身になって指導して下さりありがとうございました。4年間お世話になりました。



学 長
榊 達雄

卒業おめでとうございます。

皆さんは、名古屋芸術大学において、若き日の貴重な時期に、多くのことを学んだことと存じます。皆さんが学んだ学問・芸術、および喜びや悲しみを共にした友人は、皆さんの財産として、大切にされることを望みます。

現在はグローバル社会といわれていますが、地球温暖化の問題、生物多様性の維持・拡大、「核兵器のない世界の平和」等々は、世界各国が協力・共同することなくしては解決は不可能です。皆さんは、こうした問題を、勇気をもって直視し、世界的・地球的視野で考えるようにしてください。

国際社会において、相互交流していくために、その国の文化と歴史を理解するうえでも、自国の文化と歴史を深く理解することが不可欠です。

また、いままでに経験したことのない問題に直面しとき、これまでに学んでいない分野のことを調べなければならぬ場合があります。そのとき、大学で学問・芸術を学んだ方法が役立つと考えます。

皆さんが、今後の進路としてどのような方向に進むにしても、理性と高い志をもって、生涯学び続ける姿勢をもって自らを磨き、主権者国民として行動することにより、社会の進歩、人類の進歩への一翼を担うよう期待します。

名古屋芸術大学は、現時点では誠実に芸術および真理を探究し、もって社会に貢献すると解される建学の精神を踏まえて、音楽学部・美術学部・デザイン学部および人間発達学部の4学部を擁する芸術系総合大学として、地域に根ざすとともに、世界に開かれた大学であることに努めています。

皆さんが、卒業後も母校を見守っていただければ幸いです。

名古屋芸術大学近況報告

音楽学部

《演奏学科》

声楽コース

声楽では歌曲研究とオペラ研究を大きな柱としています。歌曲研究では学外公演を2月12日に伏見の電気文化会館で第8回目を盛況の中で実施できました。

またオペラ公演は今回始めて3回公演に挑み、2月27日に津市総合文化センター、3月9日に岐阜市文化センター、3月13日に愛知県芸術劇場で行いました。演目は「小さな魔笛」と題して、モーツァルト作曲の「魔笛」を半分に縮小して行ないました。

今回の狙いは、中高生たちにライブ感覚で学生の汗と熱意を感じてもらう事にありましたので小ホールでの公演にしました。このため後援会の皆様にはお席を十分に手配する余裕がございませんでした。ご覧頂けなかった方々にはこの紙面をお借りましてお詫び申し上げます。

さて今回も学生たちの意気込みは高く、通常の授業以外に自主練習に励み、目覚しく上手くなった学生もいました。この研究の狙いは学生の自主性と創造性を高めることにあります。まさにそれが実現出来ています。この研究を通して多くの学生が卒業後のオペラ活動で活躍をしています。今後とも彼らの活躍が楽しみです。

伴奏は始めてピアノコースの3年生と電子オルガンコースの学生にさせて学生手作りオペラを演出しました。公演はすべて大変好評で大きな拍手で大盛況のうちに終了しました。

また昨年度から実施した地元中学校でのボランティアでのオペラ鑑賞教室を今年も2月18日訓原中学校、19日白木中学校で行い生徒たちに大変喜ばれました。これは地元への貢献活動として大学が取り組むべき重要な活動の一環であります。今後とも出来る限り実施していきます。

声楽コースでは、今年度新しくお迎えしましたマルチェッラ・レアール先生、(大学院でのオペラ演技法と学部の声楽レッスン)、関定子先生(学部の日本歌曲研究)、そして近藤恵子先生(学部の合唱研究)たちの授業が大変好評だったようです。それぞれに学生たちにインパクトのある授業で良い授業をして頂きました。

マルチェッラ・レアール先生は20年ほど前から日本での教育活動を行ない全国の多くの音楽大学で学生の指導に当たられてきました。その指導は大変定評があり多くのソリストを育てています。国際的なオペラ演技の方法、また歌唱法についての指導をお願いしました。院生や学部学生からも好評で、特に院生の修了試験においてはこれまでにない充実した内容で各院生が試験に臨んで

いたのが印象的でした。今後とも益々本学での指導が充実されますことを期待しています。

声楽コース 教授 澤脇達晴

ピアノコース

今年度もピアノコースでは多くの音楽会を開催いたしました。

まず、7月『ピアノコンチェルトの夕べ』、8月『サマーコンサート』、11月『ピアノの夕べ』、12月『卒業生のためのスペシャルコンサート』、2月『春のコンサート』と『コンサート・イン・ブルー』などです。このような豊富な舞台経験が学生たちの自信に繋がり、音楽的成長を促すものになっております。

また、特別客員教授として、昨年に引き続きアレクサンダー・セメツキー先生をお招きしての公開講座とレッスン、クシュト・ヤヴォンスキー氏、ケビンケナー氏の公開講座、また姉妹校提携のハンガリー、リスト音楽院教授、ファルヴァイ・シャンドール、ラントシュ・イシュトヴァン両先のレッスンと多彩なプログラムで行われました。

今年度はピアノコース学生及び総合8単位修得の学生全員が上記の先生方のレッスンを受けることができ、大変良い経験ができ、勉強の励みになったことと思います。

ピアノコース 教授 岡 由美子

電子オルガンコース

2009年度は、ヤマハ株式会社がエレクトーン(同社製電子オルガン)を世に出してからちょうど節目の50周年だったこともあり、学生らは8月27日には愛知県勤労会館でのコンサート、9月20日には栄のナディアパークでのイベントにゲスト参加するなど、例年にも増して大きな会場での演奏機会に恵まれました。

このところ毎年のようにいただいている伏見ヤマハ主催の堀川フェスティバル(5月16日)、2度のオープンキャンパスでのプチコンサート(6月20日と9月26日)、そして定演の『アースエコー』(12月11日・熱田文化小劇場)など、どれも健調かつ好評で、特に『アース…』では、最近の同コンサート動員記録更新といえる盛況ぶりでした。

2年目となった夏期合宿は、豊橋のシーパレスリゾートに富岡ヤスヤ氏をお迎えし、有意義な2日間を過ごしました。

残念なことといえば、6年間にわたり名芸の電子に貢献して下さった松内愛先生が、ご本人のご都合により今

年いっぱい大学を退かれる事です。しかしながら後任には中部・北陸・東海でご活躍中の現役プロに来ていただき、学生らを導いて頂く所存ですので、皆様も新たな名芸電子楽器コースの発展を、どうか暖かくお見守り下さい。

電子楽器コース 准教授 鷹野雅史

弦管打・バンドディレクターコース

今年、オーケストラは、はじめてマーラーに挑戦し、ピアノのファルバイ・シャンドール先生をソリストに、ベートーベンの「皇帝」とのプログラムで好評を博しました。

ウィンドオーケストラは、6枚目のCD制作を客員教授のヤン・ヴァン＝デル＝ロースト先生の作曲、指揮で挑戦しています。また、8月には、チェジュ国際管楽器フェスティバル2009に70人の学生と竹内、星、依田、竹本の各先生が参加しました。

昨年発足したNUAストリングアンサンブルも新しい客員教授の林徹也先生のソロと指揮で、8月に演奏会を行いました。3月26日には、オーケストラワークショップが開かれます。このワークショップは、古谷先生指揮で、大勢の受講生と学生の熱い演奏会になるはずで

す。また、同演奏会では特別客員教授のベンジオン・シャミール先生を交えてのシューベルトのオクテットを教員が演奏する予定です。

弦管打・バンドディレクターコース 教授 森 典子

《音楽文化創造学科》

音楽教育コース

音楽教育コースでは、9月に名古屋栄のアートピアにおいて「音楽は友だち」コンサートを開催しました。ハンドベル、雅楽、合唱など、日頃の勉強の成果を披露し、音楽を通して数多くの方々と楽しいひとときを過ごしました。

さらに1月には「音楽教育特論」の学外授業として愛知県扶桑町にある「教科書図書館」を訪れ、明治から今日に至るまでの音楽の教科書を実際に手にとって見ることで、歴史の流れを振り返りました。

そして2月には「音楽教育ゼミ」の研修旅行で長野県松本市の旧開智学校、および日本における音楽教育の流れについて学びました。同時に来年度の卒業論文についてのガイダンスも実施しました。

音楽教育コース 教授 金子淳子

サウンドメディアコース

2009年9月14日(月)～15日(火)山梨県清里清泉寮において、サウンド・メディアコース1年生を対象に新生夏期セミナーを行いました。

1日目は、ビクターエンタテインメント株式会社の中川竜雄ディレクターを迎え、「音楽業界が求める人材」についての特別講義を行いました。2日目は、学生が作曲・録音・音響の各分野ごとにわかれ、担当教員とともに、今後どのように勉強していくべきかのディスカッションを行いました。

また、10月10日から12日の3日間にわたって、トーンマイスターとして世界各地で高い評価を得ている、ドイツベルリン在住のエバーハルト・ヒンツ特別客員教授の録音実習を本学ホール、スタジオで行いました。

今回はPf Soloの楽曲とPf.とFl.のデュオ楽曲をレコーディングしました。作曲・エンジニアリングを目指す学生にとって、とても有意義な講義となりました。

11月12日(木)ぴあ総合研究所 取締役主任研究員 笹井裕子氏を招いて、「ライブエンタテインメントの現状と今後の展望」と題した特別講義を行いました。現在の各種エンタテインメントの状態と今後どのようなことが起こるか、また、どのようなことが期待されるかを中心に講義頂きました。

12月19日(土)NHK名古屋放送局を訪問し、実際のテレビ収録を見学し、実際の業務の詳細について触れることができました。

2月4日(木)NHKで音声チーフエンジニアとして勤務され、サラウンド制作の第一人者であるパイオニア株式会社技術開発本部 顧問 沢口真生氏を招き、「サラウンド制作の実態と今後について」の特別授業を行いました。

また、3月24日(水)本学3号館ホールにて、オーケストラを媒体としたコンサート「ルネッサンス21」を行います。本コース学生が作曲した作品が披露されます。ぜひお越し下さい。

サウンド・メディアコース 講師 長江和哉

音楽療法コース

音楽療法コースではこれまでと同様、地域の障害児・者、高齢者施設にて音楽療法の実践授業を行っています。セラピストとしてセッションを進める4年生の姿は大変頼もしいです。

また、2月11日には、第2回音楽療法コンサートを行い、70名を超える子供たちが演奏を披露しました。卒業生と在学生もそのスタッフとして盛りたて、200名以上のお客様がいらっしゃる大盛況の会となりました。

3月に行われるコンサート「ルネッサンス21」で、音楽療法コースの学生は映像を使用した演出にチャレンジします。

また、コンサート前に、子供やそのご家族のためのミニコンサートも企画しており、その準備に奮闘中です。

音楽療法コース 講師 伊藤孝子

ミュージカルコース

ミュージカル選択コースは、今年、韓国の大邱市で開催された「第3回大邱国際ミュージカル・フェスティバル」に参加させて頂きました。

韓国のミュージカルを、世界で通用するようなレベルに育て上げようとの趣旨に基づいたこのフェスティバルは、毎年、世界の国々が参加し、羨ましいほどの盛り上がりを見せています。

ミュージカル選択コースは、第1回目にお招きを受け、「銅賞」を頂きました。今回はジャンヌ・ダルクに題材を得たオリジナル作品「Pritty,Mighty,Jeanne」を上演させ

て頂き、幸い、「大邱国際ミュージカル大賞特別賞」を頂くことが出来ました。

ミュージカル選択コースの若者たちが創り出すエキサイティングなステージには、私たちスタッフもいつも興奮させられます。お時間がありましたら、是非、公演に足をお運び下さい。

ミュージカルコース 教授 森泉博行

音楽ビジネス・ステージマネジメントコース

2009年度は机上から実践授業へのプロセスを展開しております。

1. 官学協同企画『音楽鑑賞講座'09～音のときめき～』（於）小牧市味岡市民センター。地元で活躍中の音楽家や団体を紹介していく、年6回シリーズもの。（6/27, 8/8, 9/12, 10/24, 12/12, 2/21）。
2. 地域密着型企画『芸術が薫る・港100』港102・シリーズ～管楽器の室内楽～。（於）名古屋ポートハウス。港の未来を担う子どもたちに名古屋芸大から“夢”と“希望”を贈る！（11/28, 2/11, 3/7）。
3. 音楽情報誌出版「音蟻：2009年 Vol.8」音楽ビジネスコースがとらえた最新音楽情報はこれだ！（10月29日発刊）

4. 新人発掘「ジャズ・ポップスの世界」。～ manifold の manifold って アルバム～。CD制作から、新人デビューまで。（'09.12/12 リリース）。

5. 産学協同企画「Kid's Music Program」（於）エアポートウォーク・名古屋。（株）ティブラン×名古屋芸大、ショッピングモールの活用。（'09.12/12）。

音楽ビジネス・ステージマネジメントコース
教授 小松孝文

ジャズ&ポップスコース

ジャズ・ポップスコースは、年度始めから毎月2号館で行うロビーコンサートが、在校生の発表の場として定着しています。年に2回は3号館ホールで教員も出演するコンサートを行い、地域の鑑賞者が増加しています。

山下洋輔、森山威男客員教授による公開講座も、参加する学生の技量を確認する良い機会となっています。

また、一流ジャズミュージシャンによる特別講座も数多く実施し、今年度はドラムの神保彰氏による講座他を行いました。

ジャズ&ポップスコース 教授 竹本義明

美術学部

美術学部では学部の大改編の2年目にあたる2009年度は、一学部一学科制という改編の内容と目的及び改編の進捗状況をより広く学内外に啓蒙するために、美術学部としては初めて、学内のアート・アンド・デザインセンターのギャラリーを使って、大学祭の期間に合わせて〈美術学部全コース展〉を開催しました。

この展示は一般の展覧会とは異なり、各コースがどのような教育目標を持って教育を行い、どのような成果をあげているかを広く見て知ってもらうために、教育をテーマとして1、2年生の学習成果を中心に展示が企画されました。

この展示会は外来の方に新しい美術学部を知っていただく良い機会になったばかりでなく、在学生や各コースの先生方にとっても、他コースの教育目標や教育内容を知る機会となり、互いに良い刺激になったと自負しています。そして、来年度、再来年度と改編の完成年度に向けて、この展示会を継続して内容、期間、場所、方法などを見直して一層充実したものにするために、すでに新たな展示会企画にとりかかっています。

因みに、このコース展を行ったギャラリーにおいては、通常は年1、2回の大学としての企画展をはじめ、

美術学部やデザイン学部の学生や教員の個展やグループ展、更にはコース毎の学習成果の発表など、長期休業期間を除きほぼ一年間を通して必ず何らかの展示を実施しています。今年度の大学の企画としては「ミュージック・シーン展」、「メディア・セレクト2009」を実施し、多くの方に来場して楽しんでいただきました。是非足を運んでそうした展示もご覧いただきますよう、御案内申し上げます。

また新美術学部では、より積極的に地域社会、更には広く社会や外国との絆を深め、学生の社会参加の機会や教育の社会的還元を目指して、学生後援会の補助や独自の授業として数多くの対外プロジェクトを企画し実施しています。2009年度には後援会の補助企画としては北名古屋市との共同企画「旧加藤邸アートプロジェクト2009」や「日本死の臨床研究会年次大会」への学生達の作品の出品展示、「アーティスト・イン・レジデンス」、「ガラスネットワーク2009」などを実施し、また独自の授業としても名古屋ボストン美術館との協働による「美術教育ワークショップ」などを実施し、いずれも講評を博し、中にはすでに、次年度以降の継続実施を相手方より提案されているプロジェクトもあります。

一方教育面では、改編と同時にアートクリエイターコースを中心に、学生と教員が学習、教育、将来目標、学生生活などについて年間に数回、1対1で話し合いをする時間を正式に時間割に組み込んで、学生と教員のコミュニケーションを深めることで学生のかかえている学習や生活上のさまざまな問題の早期解決を計るという新しい教育の試みを、多くの教員の協力によってスタートさせ、大きな成果をあげつつあります。その2年間の成果に勇気を得て、次年度以後、その更なる拡大と充実を目指しています。

最後に、美術学部での4年間あるいは6年間の教育と学習、研究の成果の集大成として、今年も3月2日～7日には大学構内、名古屋市民ギャラリー矢田、愛知県美術館、シネマスコレ(6日、7日のみ)を会場として卒業制作展を、3月9日～14日には市民ギャラリー矢田を会場として修了展を開催しました。そして卒業制作展に際しては、3月7日に今年度限りで本学を退任される元愛知県美術館長の浅野徹教授の最終講義を兼ねた記念講演会を、「岸田劉生とその時代」と題して愛知県文化センター内アートスペースAにて実施しました。いずれの会場も予想以上に多くの来場者を迎え盛況裏に終えることができました。

こうした日常的な活動や学部改編の周知度の向上の結果か、新入生も2009年度にはやや増加の傾向を見せ、2010年度もほぼその傾向は維持できると推測しています。

18歳人口の減少という厳しい状況は相変わらずですが、今後もたゆまず教育、広報、卒業生ネットワークなどの充実にも努め、入学者数の飛躍的な拡大を目指して、教職員一丸となって頑張っています。

美術学部長 山田耕二



デザイン学部

前期から夏休みを挟み後期にいたる間にも、いくつかの取り組みが行われました。

テキストデザインコースでは、7月30日から8月5日にかけて、前期に行われた特別客員教授の脇坂克二、若林剛之先生の伝統と代を結びつけたとりくみ(有松、鳴海産地の工場で)の成果の上につつまテキスト作品群と、メタルジュエリーコースに学生による作品を展示する『素材展』がアート&デザインセンターで2年から4年までの100名の学生による展覧会が行われました。

またこの間、課外活動も多く行われた。ヴィジュアルデザインとイラストコースの3、4年の学生約40人は、佐藤浩教授に伴われ、東京にある大手のデザイン会社を見学、会社側の行き届いた説明に、社会での実際を知ることができ、同時に東京でのデザイン・美術に関するさまざまな展覧会などで学ぶ機会とすることができました。

メディアコミュニケーションコースの2年学生は名古屋東部丘陵地帯を走る「リニモ」車両ラッピングデザインにコンペに参加し、昨年に続きその作品が採択されるなど、夏休みならではの活動が続けられました。また夏休み期間中に行われました。東京アクシスギャラリーで行われた「第4回金の卵学校選抜オールスターデザイン

ショーケース」に参加し、参加26大学で最多の3作品が展示されるという優秀な成績をおさめました。

夏休みの8月末には、美術学部とともに行われた教員免許講習が行われ、主として現役の教員をしている卒業生が参加しました。

9月に入り後期が始まると、1年生はファンデーション(基礎実技)の後期スケジュールが始まる。後期の課題を制作しながら各人が2年生以降の進むべきコースを見定めなければなりません。2年・3年も専門コースでの授業が後期一月に行われるレヴュー展に向けて実施されます。4年生は卒業制作がいよいよ本格的に取り組まれます。

秋は、学内外でも、さまざまなイベント、コンペ、特別講義など多彩に行われます。

10月には、ヴィジュアル・イラストコースを中心に取組まれたJAGDA新人賞受賞者によるトークショー、姉妹校ブライトン大学からグラフィックデザイナーでウィンドウズの日本語書体メイリオの作者河野英一先生を招聘しワークショップを行い、コンピューターが見落としやすい、身体的感覚において手作業をとおして読みやすい書体の作り方を学びました。

インダストリアルデザインコースでは前期に続いてカーデザイナーの奥山清行氏を招いて、電気自動車、伝

統一芸とプロダクトなどをテーマとしてワークショップを行いました。作品は10月に行われた名古屋デザインウィークで公開プレゼンテーションとして発表されました。電気自動車のテーマで製作されたタクシーは、大学・専門学校対抗のカーデザイン・コンペティションで最優秀賞を獲得しました。

10月末には、今年も学生たちの楽しい数々の取り組みが3日間にわたって展開されました。

11月27日から12月2日まで、新設のメディアコミュニケーションコースの2年・3年の学生によるコース展が行われ、学生達の力のこもった作品の数々が展示されました。

12月10日から一週間、プロダクト&スペースブロックではセラミックデザイン、インテリア(住宅)デザイン、プロダクトデザイン(オートバイ)の分野の第一線で活躍している3名の卒業生を招いて「OB展」をX棟デザインギャラリーで開催しました。会期中行われたトークショーでは、在校生と先輩デザイナーとの間で活発な、親密な交流がなされました。12月の末には4年生のどのコースも、卒業制作の審査がもたれます。学生達は、審査に向けて全力で制作に取り組みます。そして3月の展示に向けてさらに教員からの展示に向けての具体的なアドバイスのもとに最後の仕上げにかかります。

1月に入って、今年度のレビューは1月14日から28日まで行われました。1年から3年の学生が、1年間のすべての課題作品と自主制作した作品を体育館と、X棟に展示し、作品を前に、1年生は、進むべきコースの相談やアドバイスが行われます。2年・3年も同様に作品講評が行われます。今年は1月16・17日と23・24日、と一般公開日を多くしました。その結果より多くの学外の方々、ご父兄はじめ、企業の方々、マスコミからも注目されました。

1月26日から名古屋白川公園近くのギャラリーA1で、今年3回目となった『なごや展』は、地元、名古屋をテーマとしてヴィジュアルデザインの3年の学生による展覧会で、名古屋城、郷土の英傑、名古屋名物などなど名古屋の話題を興味深く、面白くとらえた展覧会でした。折からの名古屋開府400年の時節の中で注目された取り組みでした。学校の行事だけでなく学生達が自主的に行った取り組みも、いくつか話題になりました。「美濃路をテーマに清洲まちづくり案」(中日新聞1月30日)としてライフスタイルデザインコースの学生8人が清洲市内の美濃路を歩いて清須市の庁舎で提案展を行いました。

また、「町並み見直そう」と津島市のおもしろ散策地図「つまっぷ」をヴィジュアルデザインの三世二葉さんから8名の学生と名古屋市市民団体・野外活動研究会が担当し制作した。制作を依頼したのは津島商工会議所が「メタボ対策として楽しみながら気軽に歩けるコースを考えて」と本学教員に依頼したものです。(中日新聞)

同じく、津島市で、3年イラストレーションコースの谷しおりさんが天王寺通商店街の空き店舗のシャッターに津島神社や天王川の公園のフジなどを題材に描いた絵が「とてもセンスがいい。活気づく」と空き店舗の目立ち、大型店の進出で客足が遠のいた商店街を明るくしたいと願う地元の人たちに喜ばれています。(2009年10月16日中日新聞)

また、「懐かし動作『昭和たいそう』を考案したのはヴィジュアルデザインコース3年の堀場つかささん。(中日新聞1月25日)北名古屋市が認知症予防に向けて推進する療法「回想法」をテーマに集められた企画展「レトロ・回想をデザインする」に展示され話題になりました。通常授業に加えたこれらの、多様な活動をとともに今期も、学部卒業生、研究科修了生の卒業制作展、修了制作展が開かれようとしています。

デザイン学部長 溝口和夫



人間発達学部

人間発達学部が開設されて、3年が経ちよいよ完成年度を迎えようとしています。

3年次から始まる6つの専門ゼミ(子ども音楽・表現ゼミ、子ども福祉ゼミ、子ども美術・造形ゼミ、子ども発達心理と教育相談ゼミ、子ども教育ゼミ、子ども体育ゼミ)も、本格的にスタートし、各々が卒業論文制作のため、日々自主的な研究活動を行っています。ゼミナール学外活動では、名古屋市立第一幼稚園や愛知教育大学附属岡崎小学校等に意欲的に出掛け研究の幅を広げようと頑張っている学生の姿にたくましさを感じております。

ここでは、実施した2つの事業について主に紹介します。

特別公開講座

2009年8月8日に愛知県女性総合センター(ウィル愛知)で開催された「新保育所保育指針・幼稚園教育要領からの学び—小学校の連携について考える—」は、民秋言先生(大妻女子大学教授)を講師にお迎えして行われました。講演では、新保育所保育指針にみる子どもの育ち(発達)について、幼稚園教育要領と保育所保育指針の新旧対象表を示しながら、どのような点が変化したかを解説され、子どもを健やかに育てていく上で、幼稚園と保育所の区別がなくなったことを強調されました。今回の改定で最も重要なことは、小学校との連携、接続であると強調され、保育所や幼稚園での子どもの育ちを小学校に伝えることの意味、保育者としての社会的責務についてお話していただきました。会場には、県内外の保育所・幼稚園の先生方や学生が600名ほどが集まり、参加者たちの熱心な姿が会場を埋め尽くしました。



実習就職セミナー

9月5日に、学部3年生対象を主として「学外幼稚園実習へのアドバイス」と「保育所・幼稚園・施設・小学校に勤務する卒業生による就職アドバイス」が行われました。まず前半では、差し迫った幼稚園実習に向けて、高浜市立高浜幼稚園園長の榊原敬子先生から幼稚園の子どもたちの生活を中心として実習生が何を心がげどんな準備をしていけばいいかを講演していただきました。先生は人間発達学部の母体である名古屋自由学院短期大学保育科の卒業生でもあり、後輩への暖かい気持ちから大変熱心な分かりやすいお話をいただきました。後半では、「保育所部会」「幼稚園部会」「小学校部会」「施設部会」の四つの部会に分かれてそれぞれ2名の卒業生を迎えて就職アドバイスを実施しました。どの部会も熱心な学生の姿勢がみられました。特に小学校部会では、川崎市から音楽学部の卒業生が駆けつけてくれ、就職試験を突破する意気込みと教員としての仕事のやりがい等時間をオーバーしてまで学生の質問に熱心に答えてくれていました。この事業の他にも昨年度から実施している小学校体験学習を2月に実施しており、今年は昨年度を上回る参加者がありました。地元北名古屋市だけでなく、豊山町や岩倉市の小学校にも範囲を拡げ、素晴らしい教育・保育者を育成すべくこの活動を継続的に実施しています。然るべき就職試験に向けて、全教員が支援態勢で臨んでいます。

人間発達学部学生部主任 星野英五

学生部からのメッセージ

本学における
新型インフルエンザの
発生状況について

学生部長 菅嶋康浩

2009年度末となり、学期末試験及び成績発表、入試、卒業演奏会や卒業制作展、そして卒業式と大学は1年で最も忙しい時期となりました。

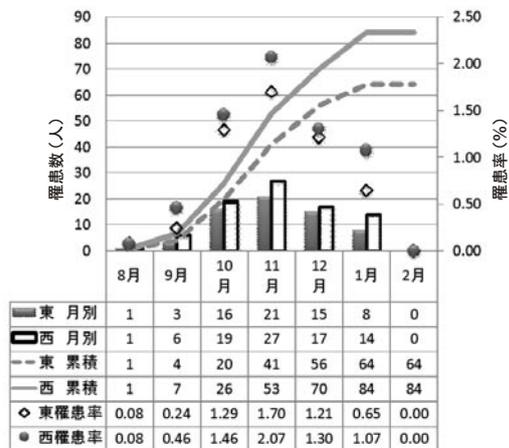
さて、本年度新型インフルエンザの流行により、日本国内はその対策に大混乱しました。本学は迅速に対策本部を設置し、文科省及び厚労省の通達を踏まえながら、対策を講じ、学生支援課を中心に対応してきました。

グラフに示したように、本学での新型インフルエンザ発生は、8月からであり、東西キャンパスで各1名ありました。9月に入り、東3名、西6名、10月東16名、西19名、11月には東21名、西27名と急増しました。各キャンパスでの学生数に対する罹患率では東1.70%、西2.07%と2%を超える状況(本学における休校措置の基準は4%)となり、警戒状態になりました。しかし、12月は東15名、西17名と減少傾向が見られ、1月には東8名、西14名、そして2月は東西ともに発生なしとなりました。本学は対策本部設置以来、一度も新型インフルエンザによる休校措置をとることなく現在に至っています。これは、幼稚園から大学、あるいは各種学校及び施設に至るまで、数多く休校措置をとっている中で本学の

新型インフルエンザ対策が有効になされたことを意味すると考えています。

2010年2月17日には愛知県は、2月8日(月)から2月14日(日)までに管内の一定点医療機関当たりのインフルエンザ患者の報告数が、国立感染症研究所が定める警報終息基準値である「10」を195か所全ての地域(保健所・政令市単位)において下回ったことから、インフルエンザ警報の解除となりました。新型インフルエンザ感染が終息に向かっていることを示していると考えられます。しかしながら、現在もなお、新型を含めたインフルエンザの今後の流行状況の推移が不透明であることから、引き続き感染予防に努めていただきたいと思います。

本学学生の新型インフルエンザ罹患数と罹患率



大学へのお問合せ先一覧

内 容	担当部署	電話番号	
学納金(学費)について	庶務会計課	東キャンパス (音楽学部・人間発達学部) 0568-24-0315 (代) 西キャンパス (美術学部・デザイン学部) 0568-24-0325 (代)	
成績について 証明書発行について 教員免許・学芸員資格について	教務課		
休学・退学について 課外活動・大学祭等について 住所変更等について 就職について 資格取得講座について アルバイトについて その他学生生活全般について	学生支援課		
本学入試に関すること 本学大学院進学について 本学研究生・研修生について	広報入試課		
交換留学について	国際交流センター(学生支援課)		
生涯学習講座について	生涯学習センター(芸術文化交流室)		
音楽学部主催の演奏会等について	演奏課		東キャンパス 0568-24-5141 (直通)
アート&デザインセンターで開催する 展覧会について	アート&デザインセンター(芸術文化交流室)		西キャンパス 0568-24-0325 (代)
後援会について	芸術文化交流室		

大学事務局で保護者の方からのご質問やご相談にお応えする場合、以下のような確認をさせていただく場合があります。特に個人情報が含まれる内容に関しては、ご子女の「学籍番号」の確認、本人の確認、保護者の確認を行った後、ご質問やご相談にお応えします。大学に登録されている情報と異なる場合は、お問合せに応じることができませんので悪しからずご承知おください。

なお、以上の理由から、連絡先等を変更された場合は、お手数でも変更の手続きをなされますようお願いいたします。変更の手続きが行われなければ本学からのお知らせや成績等をお届けすることができなくなります。

学生相談室からのメッセージ

適応・不適応について考える

人間発達学部教授

学生相談室長 佐藤勝利

本学の学生相談室は、東西両キャンパスとも週4日開室しておりますが、年間延べで1,200件ほどの相談を受けております。

学生相談室には、「精神衛生」「修学上の問題」「学生生活」「対人・異性関係」などが上位を占めますが、おおよそ学生の生活にかかわる総てといってよいほどの、適応上の種々の問題が持ち込まれています。

私たち相談員は、それらの問題の解決に少しでもお役に立とうと努めているわけですが、来室される方々のお話を聞きながら、「適応」ということについて考えさせられことが多々あります。

そんなわけで、ここでは、少し「適応」「不適応」ということについて触れさせていただこうかと思えます。

「適応」も「不適応」も生きるための調整行動

私たちは、環境との間に調和的な関係を保って生活しています。寒ければ衣服をはおりますし、部屋自体を暖めてしまうことさえできます。こうした調整行動を「適応」と呼ぶのですが、多くの他の動物とは違って、人間には物理的・自然的環境に受け身的に調和するばかりではなく、社会や文化に適合していく、それも能動的に調和的な関係を作っていくというやっかいな仕事がかかってきております。

学生相談室に来談する方々は、こうした調整行動に手間取っている人たちなのかもしれません。実は不適応行動というのも、こうした調整行動に他ならないのです。ただ、その行動の結果が、ご本人や周りの人々に不快や苦痛、あるいは迷惑などの不都合をもたらしているために、「不適応」というレッテルが貼られてしまうのです。

不適応の基準の曖昧さ

では、「不適応」とはどのような行動をいうのでしょうか。古く、ラザラス、R. は不適応の基準として

- a. 重篤な心理的不快の所在
- b. 認知不全の所在
- c. 精神身体症候群の所在
- d. 社会的規範からの逸脱

の4つをあげ、このどれかに該当すればその行動は不適応であるとしています。

なるほど、これらの基準は一応もつともらしく聞こえます。不適応な人はひどい心理的な苦痛を抱えておられるでしょうし、物事のとらえ方(認知)がゆがんでいたり、心身症的な症状に悩まされているかもしれません。また、社会規範(その最たるものは法律ですが)を逸脱してしまうのも困ったものです。

しかしながら、こうした基準は時代が変われば、あるいは文化が変われば簡単に崩れてしまいます。もう古くなりましたが、かつての精神医学で使われた「転換ヒステリー」の患者さんは、不快を訴えることもなく、いかにも幸福そうに振る舞っておられましたし、源氏物語に登場する葵の上は六条御息所の生霊に崇られて亡くなりました(当時は“生霊が崇る”ことを信じるのが“適応的”なことでした)。また、現代の私たちの多くは、多少の心身症的な症状と何とか折り合いを付けて生きてもいます。法律だって所詮は人の作造ったものです。“絶対”などということはないのです(私の遠縁の男は新婚早々に赴任した中近東のある国で、新妻を殺され、犯人が拳がらなかったために服役して帰国しました。その国の法律では“真犯人が見つからないときは、第一発見者が服役すべし”とされているのだそうです。帰国時の法学者のコメントは“不合理ではあるが、彼の権利を回復することはできない”というものでした。)

このように「不適応」の基準なるものは曖昧であり、必ずしも合理的なものばかりではないようです。

不適応行動の意味

カナー、L. が指摘するように、「不適応行動」は自分の窮状を訴えたり、助けを求める叫びであったり、問題解決の手段であったりします。安易にレッテル張りをしないで、その意味を考えることが必要なのではないのでしょうか。繰り返しになりますが、不適応行動といえども1つの調整行動なのです。さらにはより適応的な行動のステップ(踏み台)になるのかもしれないのです。

そんな思いで、相談にあたりたいと思うのです。

東キャンパス電話 0568-24-0322 (ダイヤルイン 内線529)
携帯 090-5036-5178(開室時間内のみ通話できます)

西キャンパス電話 0568-24-0350 (ダイヤルイン 内線313)
携帯 090-6474-9815(開室時間内のみ通話できます)

予約優先メール soudan@nua.ac.jp(予約のみ。メール相談は行いません)



2009年度 デザイン学部 レビュー展

デザイン学部の年度末行事である「デザインレビュー展」が、1月16日(土)・17日(日)・23日(土)・24日(日)本学西キャンパスで開催されました。

デザイン学部では、1, 2, 3年生を対象として、毎年年度末に、1年間で制作をした全ての作品の展示・口頭プレゼンテーションを行う演習科目「デザインレビュー」を実施しており、教員に向けてのプレゼンテーション・講評を終えた展示会場が、一般に向けて公開されたものです。

各学生が決められた個人ブース内(一部異なった形式もあります)に展示し、それぞれが創意をこらし「自分の世界」を表現していました。

卒業制作展以外では、学生たちの日常的な研鑽を学外に向けて公開できる数少ない企画で、大勢のギャラリーが訪れ、熱心に作品を見学していました。

また、1月23日(土)は、2010年度のデザイン学科AO・推薦・地域入試合格者の皆さんを対象とした第1回入学前プログラムが、このレビュー展会場で「見学ツアー」として行われました。



皆さん受賞おめでとうございます!

2009年度の本学在学学生(学部学生及び大学院生)や卒業生の展覧会や各種コンクール等における受賞結果をお知らせいたします。本人または担当教員を通じて報告のあったものだけをまとめています。

音楽学部

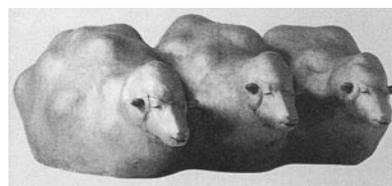
コンクール名	受賞名	学科・コース	氏名
第63回 全日本学生音楽コンクール 名古屋大会 声楽部門 大学・一般の部	第3位	演奏 声楽選択 4年	瀧口恵理子
第3回 横浜国際音楽コンクール ピアノ部門 一般の部	第2位	演奏 ピアノ選択 3年	山本多恵佳
第3回 横浜国際音楽コンクール ピアノ部門 大学の部	S.プロコフィエフ賞	演奏 ピアノ選択 1年	増岡 真実
第15回 みえ音楽コンクール 声楽部門 一般の部	第1位	音楽教育 卒業	扇野 元美

美術学部

展覧会	賞	学科・コース	氏名
第41回 日展	入選(日本画)	大学院美術研究科	各務あゆみ
		大学院美術研究科	戸田 淳也
		日本画 4年	尾崎 有香
		日本画 3年	中野ともよ
		日本画 卒業	岡本 昌子
		日本画 卒業	落合 初美
		日本画 卒業	榊原孔美子
		日本画 卒業	末松 芳野
		日本画 卒業	鈴木 淳子
		日本画 卒業	谷野 剛
		日本画 卒業	服部 泰一
		日本画 卒業	林 真
		日本画 卒業	福岡 正臣
		日本画 卒業	宮原 剛
	日本画 卒業	吉田 千恵	
	日本画 卒業	山口今日子	
	特選(彫刻)	彫刻 卒業	梶川俊一郎
		入選(彫刻)	大学院 美術研究科
	アートクリエイター 2年		松井みどり
	大学院 美術研究科 修了		玉井 克憲
大学院 美術研究科 修了	植田 努		
大学院 美術研究科 修了	長谷部尚子		
大学院 美術研究科 修了	三政 洋一		
大学院 美術研究科 修了	森 矢真人		
彫刻 卒業	川村 佳則		
彫刻 卒業	松田ユキ子		
第4回 万葉集日本画大賞展	準大賞	日本画 卒業	福岡 正臣
第4回 翔け! 二十歳の記憶展	グランプリ	大学院 美術研究科	畠山 瑞規
	審査員賞	造形 3年	伊藤 直志
第5回 飾り瓦コンクール	優秀賞	大学院 美術研究科	横田めぐみ
	中日新聞車賞	彫刻 卒業	梶田俊一郎

(※受賞等の情報は芸術文化交流室までお寄せ下さい。
※上記以外にも受賞された方がいらっしゃると思われませんがご了承ください。)

第5回 飾り瓦コンクール 優秀賞受賞
横田めぐみさんの作品



デザイン学部

■「第21回全国和紙画展(2008公募)」で、大学院デザイン研究科(ヴィジュアル)修了生 野口晶子さんが銀賞を受賞しました。

■「名古屋ピンクリボン運動 シンボルマーク・ロゴタイプ コンペティション」でヴィジュアルデザイン3年生 加納和歌子さんが最優秀賞を受賞しました。

■メディアデザインコースの前身、造形実験コースの卒業生 佐藤嘉彦さんは第12回文化庁メディア芸術祭、エンターティメント部門で「グッズのアイデア提案サイト Prototype1000」が審査委員会推薦作品に推薦されました。

■「リニモ」車両のラッピング広告デザインコンペ『愛知・名古屋が元気! Power Linimo』にメディア・コミュニケーションデザインコース2年の学生が挑戦し、「Sweet Power Linimo」チームの作品が採択され、2年連続で名古屋芸大デザインのリニモが名古屋東部丘陵地帯を走ることになりました。

■「MINI ARTEXTILE COMO」で、テキスタイルデザインの卒業生(33期) 川西景子さんが、グランプリを受賞しました。

■「帽子コンテスト」で、テキスタイルデザイン3年生 堀本有希さんが、創作賞を受賞しました。

■「注染・和晒デザイン画コンテスト」で、テキスタイルデザイン3年生 加藤萌さんが、優秀作品賞を受賞しました。

■「中部染色展」で、大学院デザイン研究科(クラフト)2年生 柏井裕香子さんが名古屋市長賞を受賞しました。

■「中部染色展」で、テキスタイルデザイン4年生 米野直子さんが、奨励賞を受賞しました。

■「全国 きもの デザインコンクール」にテキスタイルデザインコース3年生 秋久保久実さんと西垣みずほさんが入選しました。

■第5回佐野ルネッサンス鑄金展で卒業生の畑中聡子さんが奨励賞を受賞しました。

■第49回日本クラフト展に、研究科(クラフト)1年生の桑山明美さんが入選しました。

■The BAMS STUDENT MEDAL PROJECT 2009で研究科1年生の桑山明美さんが招待校優秀賞を受賞しました。

■「第1回大学・専門学校対抗日本カーデザイン・コンペティション」で、インダストリアルデザインコース3年の小西悠也君、太田尚文君が優秀賞(AUTODESK賞)を受賞しました。

■「TOYO TIRES タイヤデザインコンテスト2009」で、インダストリアルデザインコース3年の杉浦安衣さんが佳作を獲得しました。

■「社会を良くするデザイン」というテーマのもとに開かれた「AXIS 第4回 金の卵学校選抜・オールスターデザインショーケース」に参加した全国26デザイン系学部校40作品のうち、インダストリアルデザインコースの草野敦子さん、木村容子さん、杉浦安衣さんの3作品が選ばれ、参加校中最多の作品が選ばれました。

■名古屋デザイナーズウィーク「ディスプレイコンペ」でスペースデザイン3年の奥田真美さんが優秀賞を受賞しました。

■「美濃和紙あかり展」にスペースデザイン3年の大久保圭君が入選しました。



堀本有希さんの作品



加藤 萌さんの作品



野口晶子さんの作品

私 が 就職内定 を も ら う ま で

信頼される教師になりたい



音楽学部 演奏学科
音楽総合選択コース
4年 犬飼真菜

教員を漠然と意識し始めたのは中学生の頃からです。学校が好きで、部活に力を注ぐ日々を過ごしていました。

高校生となり将来を考えなければならなくなって、やっと本格的に教員を目指しはじめました。第一志望は教育大学の音楽科でしたが、結果は失敗に終わりました。

一度は浪人も考えましたが、浪人をするとう現役合格した人たちに負けてしまうと、「採用試験で見返す」という信念を持って名古屋芸術大学に入学しました。

大学では、不得意であった声楽をなんとかしたい、という一心で4年間レッスンを受けてきました。教員として必要であると考えたピアノや楽器については、総合コースの特色を十分に生かしレッスンを続けました。

筆記試験の勉強は、大学の講義と学内の対策講座などを受け、もちろん家でも勉強しました。また、採用試験で一番大切と考えた面接試験については、教員志望の友達と練習を積み、過去に質問された内容は、完璧に受け答えできるようノートを作り、対策を立てました。同時に一般企業の就職試験もいくつか受け、「面接」という場に慣れようと努力し、その甲斐あって試験ではあまり緊張せずに受験することができました。

10月に教育実習へ行きました。寝る時間もないくらい忙しい日もあったり、自分の不甲斐無さに落ち込んだり、生徒たちの一言に感動したりと、とても充実した3週間を過ごしました。「教師」という仕事の楽しさと辛さを知り、より教員になりたい気持ちが強くなりました。採用試験が終わった後の実習によって、決意を固めることになるとは思いませんでしたが、結果が良いもので本当によかったです。講師経験もなく教壇に立つことはとても不安ですが、中学生の頃からの夢が叶おうとしている今は期待でいっぱいです。

4月からは新たな環境で、少しでも早く信頼される教員になりたい、と思っています。

(大阪市公立学校教員)

たくさんの人と出会えた就職活動

音楽学部 音楽文化創造学科
音楽療法選択コース
4年 久保輝花

私が就職を考えだしたのは2年生の終わりごろでした。音楽を職にするには無理があるのではと思い、音楽は趣味とし、一般企業への就職を考えました。

実際に就職活動を始めたのは3年生の秋でした。就職活動と言っても何をどうすればいいのかかわからず、まずは就職支援サイトなどに登録し、いろいろな企業展に行き、会社を知ることから始めました。企業展に行ってみると今まで自分が知らなかった職業や会社がたくさんあり、その説明を聞いていくうちに自分は何がしたいのか、自分には何ができるのか次第に分かってきました。

私は実習で培ってきたコミュニケーション能力を生かせる接客業に興味を持ち、関連企業の採用試験を受けました。受験をしていく中で私が最初につまづいたのは、履歴書・エントリーシートでした。本当に最初の段階なのですが、これがとても難しく、自分って何だろう？自分の長所は？短所は？と悩み、学生支援課に何度も行って相談しながら書きました。その甲斐あって、何社か一次選考を通過しました。

私は面接には若干の自信があったのですが、二次・三次選考は通ってもそこから先へはなかなか進めませんでした。面接30分を受けるためだけに東京や大阪に行くこともあり、その企業に落ちた時には「交通費を返してほしい!!」と学生支援課に愚痴を言いに行ったこともあります。

何社も何社も受けてダメだった中で、最初に内定を頂いたのはドン・キホーテでした。面接官がとても尊敬できる方で、この人と一緒に働いてみたいと思ったことや、人事の方に「是非入ってほしい」と言っていたことが決め手となりました。もちろん、私自身が、この会社で働きたいと思い内定をお受けして、私の就職活動は終わりました。

正直、就職活動は大変でした。けれどたくさんの人と出会って、いろいろな社会を見ることができたのでやってよかったと思います。社会に出ることへの不安はありますが、自分らしく頑張っていきたいと思っています。



(株式会社ドン・キホーテ 内定)

とりあえず一歩進むことが大切

美術学部 絵画科
日本画コース
4年 吉田有希

私が就職活動を始める前は、漠然とですが美術に関する仕事に就きたいと思っていました。

いよいよ就職活動を始める時に、大学の講義を受けるにつれ、興味を持っていた学芸員の仕事を第一志望に活動を進めようと思いました。

実際に、何度か学芸員の職員採用試験も受験しました。しかし情報をあまり集めていなかったのもあって、専門的な問題など、どう手をつけていいかわからず、そんなに勉強していないせいで落ちてしまいました。

学芸員の採用試験を視野に入れながら他の一般企業も、説明会や面接などに挑みました。しかし、もともと他の人より就職活動を始める時期が遅く、当初はパソコンなどで企業を調べ、興味がでたら説明会に行くという程度で、“真剣に就職活動をしている”状態とは程遠かったと思います。

また、「就職しなきゃ」と思う反面、大学での課題や教育実習などを言い訳に、就職試験に落ちることを恐れ、就職活動から逃げていた部分も大きかったと思います。また、面接や就職試験を受け、落ちるたびに落ち込んで、私の就職活動はなかなか進みませんでした。あまり積極

的に足を動かさない自分に腹が立ち、訳もなく悩んでいた日々が続きました。

しかし私は周りの人達に助けられました。友達をはじめとし、社会人の先輩の方々に悩みや不安な気持ちを打ち明けて、前より少し前に進める気になりました。

その時にはもう12月になっていましたが、私の本当にやりたいことは何だろうと思ひ直し、大学の学芸員資格の為の講義で、修復のことを学んで興味を持ったことを思いだし、前に学生支援課の方に教えていただいた会社に、駄目で元々のつもりで電話してみようと思ひました。その会社は古い掛け軸、和額、屏風などの修復を行っている会社です。

励まされ、一歩前に進もうと思ったことをきっかけに、内定をいただくことができました。

私の場合は努力で内定をいただいたわけではなく、ご縁だと思ひます。立ち止まっていたは何も出会いはないけれど、とりあえず一歩進むことが大切なんだと強く感じました。



たくさんの人と出会えた就職活動

デザイン学部
ライフスタイルコース
4年 井上香奈子

私が“就職活動”を気にし始めたのは、学校でガイダンスが始まる前からでした。バイト先の1つ上の先輩が売り手市場と世間でいわれながらも、内定が出ずに苦戦…その先輩から「就職活動は早く始めた方がいい！」とアドバイスを受けたからです。

さらにもう1つ理由があります。中学生の頃から“編集者”という職業に憧れ、この大学に入学し、将来も絶対に編集の仕事がやれる会社に勤めたいと思っていたからです。

就職活動の第一歩として、まずは編集の仕事が本当に自分に向いているのか確かめるため、インターンシップに参加しました。期間中は毎日が新しいことの発見があり、実際に“社会”に触れることができ、とても充実した1週間を体験することができました。

3年生の10月から、私の本格的な就職活動が始まりました。合同企業展やセミナー、会社説明会など少しでも興味があれば回っていました。1月に入ると説明会に加え、レビュー展やポートフォリオの課題があり、同時に

エントリーシートの添削と面接試験の練習に毎日大学へ通っていました。特に2、3月は愛知県だけでなく、東京や大阪へも説明会や試験を受けに行き、家に帰っては泥のように眠っていました。

4月の時点で、合計20社以上の企業から不採用の通知を貰い「自分を必要としてくれる企業はないんじゃないか」と思うこともありました。しかし、どうしても夢は諦めきれませんでした。

就職活動を始めた頃から、私にはどうしても働きたい企業がありました。それは、インターンシップ先の企業でした。短い時間ではありましたが、会社の業務内容や作っている製品、会社の雰囲気などとても自分に合い、「ここががんばって働いていきたい！」と強く感じていたからです。5月の試験が始まるまでには、他社を実際に受けることで、自分が足りないところを反省しつつも、一番素直にエントリーシートや面接を受けることができ、最終的には無事内定を頂けることができました。

就職活動を通して、自分を含め様々な発見や体験をすることができました。この経験は私にとって、とてもかけがえのないものです。

あと数ヶ月で実際に社会に出て、働くことになりましたが、不安であると同時にまた新しいことを発見できたり、学んだり、とても楽しみです。

親の想い

夢や希望を与えるパフォーマーに!

音楽学部 音楽文化創造学科 ミュージカルコース
4年 母 黒柳真弓

仕事中の携帯電話に「USJに合格したよ!」という娘からの興奮した涙声が…。思わず貰い泣きしてしまったのが12月半ば。そして1月中旬には卒業式を待たずして、憧れのテーマパークダンサーの一步が始まりました。

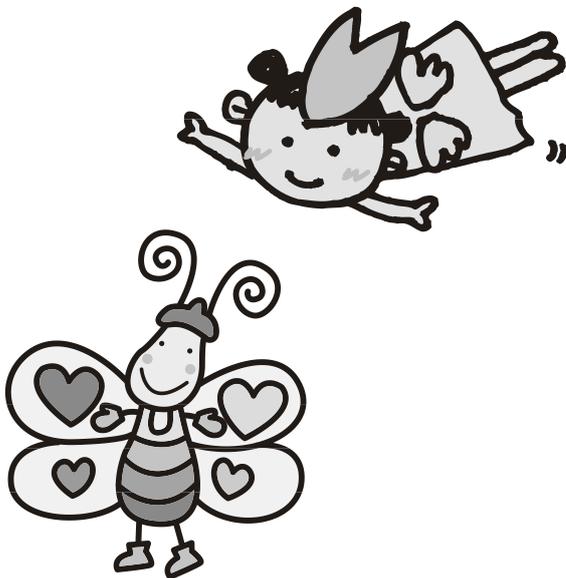
音楽大学に行きたいという娘の気持ちを知り、名芸卒のピアノの先生に相談すると、名芸のミュージカルコースを紹介され入学しました。

毎日、学校が閉まる21時までスタジオで練習を重ね、クタクタになって帰る娘でしたが、同じ志を持った学友がいるから、楽しい学校生活のようでした。

2年生の時に試しに受けたチアドラゴンズに合格し、学業との両立に苦しみながらも乗り越えた時には、随分成長したのだと感心しました。その後も名古屋市民ミュージカルに出演したり、2度の韓国公演に出演させていただいたり、本当に充実した学生生活だったと思います。

娘の4年間の努力は計り知れないものがありますが、何より暖かくご指導下さった諸先生方に感謝し、励まし合い応援してくれた仲間達のささえがあったからこそその夢の実現である事を忘れずに、お客様に夢や希望を与えるパフォーマーになってほしいと思います。

卒業おめでとう。でもオープンキャンパスや修了公演を見る楽しみがなくなるのは少し寂しい母です。



悔いの残らない学生生活を

美術学部 絵画科 日本画コース
3年 父 原田昌夫

早いもので、あの必死の思いの入試、それから入学とあっという間の3年間でした。1年、2年は午前の講義、午後はデッサンや様々な実技、毎朝早く私と同じ時間に家を出る毎日。1日も休まずよく続いたものだと、自分の娘にしてはよくやっていると感じさせられました。

3年では日展に風景画でエントリー。私も娘の足代わりに、スケッチにつきあわせられ、娘は娘で夏休み中も毎日暑い中、学校のアトリエで朝から夜まで数ヶ月かけ、やっとの思いの大作の完成でしたが、残念ながら入選にいたらず。本人はけっこうショックだったとのことですが、親から見れば初めてで日展に選ばれることなどはないと分かっている、少々残念な思いをしました。これをきっかけに人の心を打つ作品に取り組んで欲しいものです。

考えてみれば両親とも美術とは縁遠いのに、思えば娘が小さな頃から絵を描くことが好きで、よく襖や壁いっぱいに落書きともいえる絵を描き、よく注意をしたものです。

そんな子が幼稚園の頃、ある大人の一言で絵を描けなくなり、親も幼稚園の先生も、ずいぶん心配しました。それは「下手な絵ねー」。大人の何気ない一言が娘を傷つけてしまったのです。

一人の親として子供を育てて行く上で、子供に対して言うて良いこと、いけないことがあると思います。自分も子供に対して言うてはいけない一言もあったはず、ずいぶん子供も傷ついているかもしれません。反省しなければなりません。

それから中学校の頃、新聞の小さなイラスト欄に投稿し、幾度か載せてもらい、親子共に新聞を見てニコニコ顔に。高校は美術科のある学校に通い、デッサンや絵画を勉強するにしたがって、難しさの奥の深さや、挫折をつくづく味わったようです。

今も学校の勉強が大変だと思いますが、父からの一言。自分の身の回りの事くらい、親に頼らずもう少しやって欲しいものです!

それから1年、ありきたりですけど、これからの人生を変える1年になるかもしれません。悔いの残らない様に、学生生活を送ってもらいたいと思います。

子の想い

ありがとう

デザイン学科 ライフスタイルコース
4年 磯野祐子

楽しかった大学生活ももうすぐ終わりを迎えようとしています。名古屋芸術大学での4年間は私にとってとても充実したものとなりました。

小・中・高と過ごして来た私の学生生活はそれなりに楽しいものですが、自分から何かをしたいと思う事が特になく過ぎていったように思います。この大学へ進んだのは、初めて自分で決めた意思でした。小学校の工作の時間が好きで、デザインという世界にあこがれを抱き始めたのがきっかけです。

大学1年生のとき、これから毎日デザインが学べるんだと思うとワクワクして、課題にのめり込んで行きました。一心不乱に頑張っていたら、レビューの選抜展に選ばれました。今まで何かに抜擢されたことのない私にとってこんなに嬉しいことはありませんでした。もっと何か作りたいと思うようになり、色んなきっかけから4年間一生懸命「ものづくり」に励みました。

漫画動画研究部では大勢で協力して、特撮やアニメーションを作り、オープンキャンパスでは展示やワークショップの企画を考え、志向をこらした新入生歓迎会を催したり、芸大祭で企画展を出したり、課題以外にも自分から進んでやる事がどんどん増えて自分のどこにこんなエネルギーがあったんだろう…と驚きました。

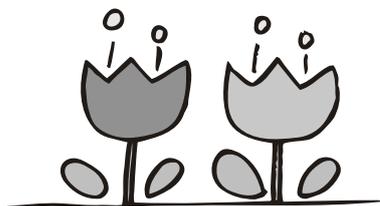
常に評価されていたわけではなく、批判される事も、うまくいかない事もありましたが、「やりたい」という気持ちがあることで自ずと目標が見えてきたのです。

大学生活は教育実習や就職活動など、楽しい事ばかりではありませんでしたが、それまでの経験から自信が付き諦めずに頑張り抜くことができました。大学での経験は私にとって大きな財産となったと思います。

こんな大学生活を送れたのは、大学に通わせてくれたお父さん、お母さん、ご指導いただいた先生方、学生生活を共にした友達と先輩、後輩のおかげだと思っています。

この場を借りてお礼をいいます。

ありがとうございました！



大学の名に恥じないように

造形科 ガラスコース
4年 菅沼香奈

名古屋芸大の先生方、職員の皆様、4年間大変お世話になりました。

私は高校3年の夏から本学を目指しました。それまでは文学部に進む予定でした。そのため、夏以降は試験に向けて毎週末はデッサンや彫塑をする毎日でした。念願かなって入学できたときの喜びを昨日のことのように思い出します。

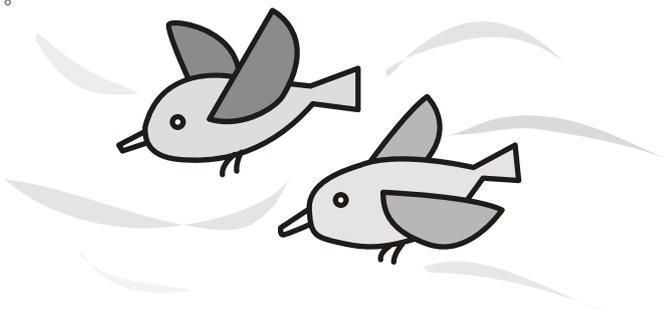
入学当初は不安や戸惑うことばかりでした。しかし、学年が進むにつれてなくなり、創造する楽しさや創り出す喜びを味わえるようになりました。友達と助け合い、先生方や先輩にアドバイスをいただきながら創作活動中心の生活となりました。

中でも、印象に残っていることは毎晩夜遅くまでガラスの作品作りをして、終電で帰る日が続いたことです。家族に駅まで迎えに来てもらったことも何度もありました。寝袋で朝まで寝てしまったこともありました。完成したときの喜びは何事にも代え難いものでした。しかし、家族や大学に迷惑や心配をかけてしまいました。

制作活動を進める中で得た貴重な体験は、卒業後の生活で必ず役立つと信じています。私は他の大学では経験できない無から有を生じる活動に打ちこんできました。

これからの社会はどう変化していくのか不安も多くあります。就職先では新たな発想を求められることも多くあると思います。そんな時には、4年間に培ってきた自分の頭で考え、他の協力を得ることをしながら、どんな困難も乗り越えていきたいと思っています。そして、名古屋芸術大学の名に恥じないような人生を送り、名古屋芸大で学んだことを広めていきたいと思っています。

4年間、お世話になった、先生方や職員の方、友達、後輩の皆さん本当にありがとうございました。



2009年度 名古屋芸術大学後援会 研修旅行報告

今年度の後援会研修旅行は、10月17日18日、秋晴れのよいお天気のなか熱海、伊豆方面へ芸術の秋の旅に行ってまいりました。榑学長を初め、大学教職員8人の皆様にもご参加いただき総勢31人の大きな団体旅行となりました。

今年は、事故による渋滞もなく、順調に沼津から熱函道路からMOAに到着。秋風が心地よく吹きぬける高台の上から、相模湾をみわたせる静かで施設内の道程が長い美術館です。

特別展として「ルネ・ラリック展」19世紀後半から20世紀前半にかけてパリで活躍したジュエリー、ガラス工芸デザイナーです。クラシックカーのボンネットの先の飾り、羽のあるニンフのプローチ、パッカスの巫女の花瓶など細密に装飾デザインされた彫塑、ガラス工芸品のひとつひとつを丹念にみていくと、その才能に引き込まれ知らず知らず時間が過ぎていきました。

ノリタケの森美術館でみたガラス、陶磁器や調度家具などによく似た技法がみられますので、日本のガラス、金属工芸に与えた影響は少なからずあるのではと思います。



▲MOA美術館
「ルネ・ラリック」展ポスター

お宿は、東伊豆の稲取温泉の銀水荘で、海岸沿いの露天風呂で大波をみながら同室の菅嶋先生やメンバーと本学将来について語り合ったり、岩風呂のなかでまったりしたり…。癒しの湯で汗を流し、宴会では、カラオケ大会で盛り上がりました。出色は、澤脇副学長のアカペラでの迫力あるステージにはホテルの仲居さんも胆をつぶされていました。



▲於 MOA美術館



▲於 池田20世紀美術館

翌日は、伊豆市の池田20世紀美術館でのピカソ、ルノワール、ピカソ、ミロ、ダリ、シャガールなど印象派、現代美術の巨匠の大作を溝口デザイン学部長のがわかりやすい解説を拝聴しながら芸術の秋を堪能いたしました。

後援会3年目で始めて参加させていただきましたが、土曜・日曜丸2日間大学と後援会との絆について考えることができましたし、自分にとってもワーク・ライフバランスについて改めて考えられる良い機会をいただいた旅行でした。

皆様のご協力により無事に帰ってくる事ができました。ふつつかな幹事でしたが、最後まで支えていただきました金子室長、事業委員会の皆様、添乗の小松様お世話になりありがとうございました。

事業委員長 澤 達彦



▲於 池田20世紀美術館



▲於 葦山反射炉

2009年度 東キャンパス芸大祭 L O V E

今年の芸大祭のテーマは「LOVE」でした。

「LOVE」といっても単純な意味の恋や愛ではなく、友愛や師弟愛、家族愛など様々な人との繋がりをもっと深めるきっかけになる芸大祭にしたいという思いを込めてこのテーマにしました。そして、実行委員をはじめその他の生徒や先生、地域の方々、職員の方々と協力し長い間頑張ってきました。

その甲斐あってか今年は3日間とも見事に天候にも恵まれお客さんも多数来場し、例年以上に活気のある芸大祭になったと思います。



今年も学校全体を使い、ジャンル別にステージを分けいろいろな場所で演奏や企画を行いました。グリーンステージではロックやパンクなど激しくカッコいい音楽が、ブルーステージではアコースティックやジャズといった優しい音楽が3日間鳴り響いていました。毎年クラシックステージとして吹奏楽やマーチングが行われているイエローステージではそれに加えてファッションショーが行われました。初の試みだったので不安もたくさんありましたが盛り上がり大成功でした。オレンジステージでは子ども向けの演奏や企画が行われ盛り上がっていました。

また1号館内を使用し、わくわくランドという人間発達学部の学生や教授によるこども向けのイベントも行い、これにより来場者のこども達の数が例年より増えていました。

この企画によって例年以上に誰もが楽しめる芸大祭に近づいたと思います。改善点もたくさんありますが来年もこの企画を是非続けていきたいと考えています。



そして芸大祭の中心でもあるメインステージでは学生によるハイレベルな演奏やダンス、音楽学部の先生達による演奏、誰もが参加できる楽しい企画などを行い多に盛り上がっていました。最後にはこのステージでたくさんの方が見守る中、芸祭中の写真を集めたエンディングムービーを流し、長いようで短かった3日間は幕を閉じました。

この3日間で気づいた事…それは、人は何かを成功させようとするときには仲間が必要だということです。私にはたくさんの仲間がいました。辛いとき励ましてくれる仲間、一緒に悩んでくれる仲間、逃げ出そうとしているとき怒ってくれる仲間、そんな仲間がいて、はじめて今年の芸大祭は成功したのだと思います。そしてこの仲間の存在こそが今年のテーマ「LOVE」なんじゃないかなと思っています。

この芸大祭が新たな絆や繋がりを深めるきっかけになっていたら幸いと思っています。

芸大祭2009「LOVE」お疲れさまでした!!

東キャンパス芸大祭実行委員長 荒川拓哉

2009 西キャンパス芸大祭

わあーと

—つくるをつくる芸祭—

わあーと

口にするとなんだか楽しくなる言葉です。

2つの言葉からなるこの造語は「わ+あーと」

今年の芸大祭ではわあーとを合い言葉に私達芸大生が共通するものアート、そんな私達が一緒に祭りをつくる事で生まれる力を大切にしたい芸祭となりました。

前夜祭では驚きや歓声、またアート性を盛り込んだダンスやパフォーマンスで名芸生を盛り上げ、みんなでこの芸大祭の前夜祭を作りました。



模擬店では各お店に芸術性あふれる垂れ幕看板を作ってもらったり、内装を一から手作りで作ってもらったり、他の学祭にはない芸大祭らしい空間になりました。



また、北名古屋市市民との交流をつくるイベントでは名古屋芸術大学×NPO法人団体クーピーファッションアートグループとコラボしてビックアートを子ども達と一つの絵を完成させるイベント「みんなあーと」を行いました。



外来イベントではテクノ・エレクトロニカ的要素とロックが融合した『サカナクション』のライブを行いました。レーザーパフォーマンスや新曲も初披露してもらうなど初めて聞くお客さんでも楽しんで頂きました。

最後になりましたがご協力を頂いた模擬店、企画展の皆様、地域の皆様、その他携わって頂いた全ての関係者の皆様、本当にありがとうございました。

天候にも恵まれ、沢山の方が芸大祭をつくってくれました。これからも皆様から愛されるような日本一の祭りを目指し、芸大祭がもっと名芸生、北名古屋市にとって意味のあるお祭になるよう、もっともっと進化していき、この伝統ある祭りを守っていきたいと思います。

本当にありがとうございました。



西キャンパス芸大祭実行委員長 伊集院一徹

後援会補助公開講座実施報告

音楽学部

名古屋芸術大学 スペシャルコンサート

2009年12月、名古屋芸術大学3号館ホールにて、学生、卒業生、そして高校生からオーディションで選出された8名のソリストを迎え、古谷誠一先生の指揮、名古屋芸術大学オーケストラの演奏で「コンチェルトのタペ」を開催しました。

ピアノコースでは、卒業生も音楽への追求を続けている人たちの活動の場を、また、弦管打コースではオー

ケストラの学生と、若く優秀なソリストとの共感の場という2つの思いをもって続けてきました。今回も非常に多彩なプログラムのうえ、力いっぱいの演奏に満員の観客の皆様からの暖かい拍手を沢山いただき、大盛況のうちに終演いたしました。これまで続けてこられたのも、後援会の皆様のご理解とご支援のお陰と感謝いたしております。



弦管打コースの「室内楽のタペ」は、第28回目を12月10日に熱田文化小劇場で開催しました。

わがコースの学生たちにとって室内楽「命」みたいな存在で、例年本コースすべての学生が、エントリーしているほどの盛り上がりを見せるオーディションの様子に

対し、当日の観客動員が少ないと感じていました。ところが、今年は2日連続の演奏会を1日に凝縮したことにより、観客がぐっと増え、当日も盛り上がりを見せた充実した演奏会になりました。

官学民連携プロジェクト 飛騨童話会議2010 オリジナルミュージカル 開催 「シンデレラ・ワンダーランド ～花嫁は粉雪に包まれて～」

去る2月21日(日)に飛騨・世界生活文化センターで、また2月28日(日)に関市わかさプラザ内関総合体育館で、飛騨童話会議2010「シンデレラワンダーランド ～花嫁は粉雪につつまれて～」が開催されました。





これは昨年度より、本学と飛騨・世界生活文化センターとの連携事業として行っている市民参加型のオリジナルミュージカルで、今回は文化庁の地域芸術振興プランの助成を受け、同センターでの高山公演に加え、関市わかさプラザ内関総合体育館での関公演の2公演を開催しました。

参加された市民の皆さんは、飛騨地区や関市などの3歳から64歳までの皆さん総勢280名。本学キャストなどを加えると参加者300名を超える「超大型ミュージカルプロジェクト」となり、本学はキャンプの指導や上演に関する部分を担当。飛騨センター様は運営と総括を担当。両者ガッチリタッグを組み公演に臨みました。

今回の物語は、童話の主人公たちの結婚騒動を描いた、ちょっと変わったストーリー。(脚本・演出：森泉博行〔本学教授〕)本番までは「ダンス」「コーラス」「ミュージック(吹奏楽)」「バレエ」「アクティング(演劇)」の各キャンプ(ユニット)に別れて、約半年間の練習を重ねてきたもので、振り返れば昨年7月からの参加者募集の告知に始まり、8月のオーディション、9月からは各キャンプ、2月に本番と足掛け8ヶ月の時を経ての公演となりました。

今回の本番までに行ったキャンプはのべ15回。ひと場面で最大130名の参加者のダンス…。少人数でもまとまるのは大変な振付…。初めは「本番までにちゃんとまとまるのだろうか…?」とのスタッフの心配も、年が明けた頃には皆さんの上達ぶりに一気に吹き飛んでしまうほどでした。



本番当日は開演前から開場を待つ人方の長蛇の列。土野高山市長や尾藤関市長を来賓に迎え(高山公演)、来場者は高山公演は約1056人、関公演約1020人と、多くの方々で会場は満席となりました。

舞台袖は、きれいにお化粧をしたチビッコ達や、お揃いのTシャツを着た皆さんが、仲良くなった本学キャストと振り付けのおさらいをしながら出番を待つ姿や、オーディションで選抜された皆さんがキャストやユニットコーラスで出演される皆さんが台詞や歌詞を復唱する姿が印象的で、皆さん「公演を成功させる」ことに一丸となって本番に挑まれ、今までの成果を十分に発揮し、すばらしい舞台を演じられました。



終演後、参加者の皆さんと本学メンバーとの「懇親会」が開かれ、あちこちで貴重な体験をした思い出に写真を撮り合う姿や、ユニフォームであるTシャツにキャストのサインをしてもらうチビッコ達が、いつまでも会場を去ることもなく、なごり惜しそうにされていました。

次回は2011年2月20日(日)に開催が決定しています。3ヶ月後には次回に向けてのプロジェクトが始動しますが、既に観客の皆さんから、出演の申込方法などの数多くの問い合わせが飛騨センターに入っています。

前回に引き続き今回、次回と本学にとっても素晴らしい体験をすることができる童話会議。これも後援会の皆さま、関係された皆さまのご協力があったのことに感謝いたしております。ありがとうございました。

後援会補助公開講座実施報告

美術学部

「旧加藤邸アートプロジェクト2009」を開催

この企画は名古屋芸術大学美術学部と北名古屋市教育委員会の共催で実施した美術展である。美術学部の学科が一つになり、各コースが大きな輪となってアートという広場で学ぶことから、より具体的に実のあるものにしよとすることがコンセプトにある。教育委員会と共催となったのは、会場となる旧加藤家住宅を美術展として搬入出を含む11日間も使用すること、教育委員会が毎年実施しているこの会場や歴史民族資料館などでの、秋の文化行事の一環にしたいということもあった。以下がこの企画・旧加藤邸アートプロジェクト2009の実施内容である。

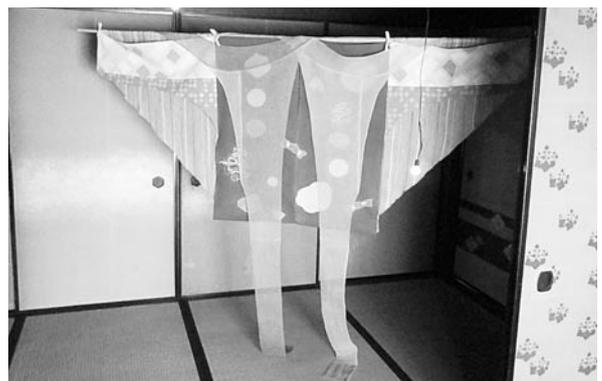
展覧会テーマを「記憶の庭で遊ぶ」としたのは、実はこの会場敷地には北名古屋市が運営する地域回想法センターがあり、市民のお年寄りの方々が集まって自分たちの昔の生活や行事を思い出して話し合ったり、一緒に様々なことを再現する活動に参加して、忘れかけた記憶を取り戻す活動の拠点となっていることによる。明治時代に建てられて使われてきた旧加藤家住宅の庭や建物、そして残された道具たちを体験の素材として利用していることと、この古い魅力的な民家の庭や建物への見学による印象や回想法の活動に立ち会うことが刺激となって様々な作品への発想となるのを期待した。



このプロジェクトを公募制としたが、21名の学生、卒業生の応募があり、18名の入選、合計24作品を展示した。入選者は美術学科内の各コースにわたり、デザイン学科生や卒業生も含まれていた。作品は庭や各部屋をよく考えて選んで制作しており、創作の茶会やかやつり、映写作品など、とてもユニークな内容であることが話題となり、450人を超える市民が見に来られた。

来年度もさらに継続して開催しようと、美術学部と教育委員会双方で準備を進めている。

美術学部 立体造形コース 庄司 達



後援会補助公開講座実施報告

デザイン学部

後期にも数多くの公開講座が持たれた。

9月24日には本学デザイン学部のフリップ・ブラス教授の展覧会が本学アート&デザインセンターでオープンし、10年以上にわたる先生の日本で製作した主たる作品が、会場を満した力強い多くの作品は学生をはじめ、一般の来場者にも大きな感銘を与えました。

10月、常滑に陶器の工房を持つ本学では、活動の一環として展覧会をはじめとした地域活動を行ってきました。昨年に続き、本学デザイン・美術の学生をはじめ、県下の芸術系大学とともに常滑市内の使わなくなった焼き物工場や住宅などを20数会場地元の好意で借り、さまざまな工夫を凝らして展覧会場として昨年に続き作品展示を行いました。

『常滑フィールド・トリップ2009』という展覧会名が示すように、常滑の街の景観そのものを取り込み、駅から近い本学工房をスタート地点として20数箇所に配された会場を配られた地図を見ながら会場をめぐるというものです。学生たちのさまざまな作品とともに、常滑市の伝統と風景も同時に浮かび上がらせる効果を持っており、大勢の一般の参観者に喜ばれています。今年は、地元の人々を含め、会期中(10月10日・10月18日)に6000人以上の参加者でにぎわったといわれています。

10月10日に地元企業、商店会、常滑市の協賛を得て、シンポジウムがINAXライブミュージアムで行われ、150人以上の陶磁器業界、陶芸作家、商店会、研究者、

一般市民、学生らによって意見が交わされ街起こしの一環としても大きな役割を果たしました。

作品を展示した学生、地元の子供たちとともにワークショップをする学生、また他大学の学生や、地元の人々との交流で活気に満ちた日々を送ることが出来ました。

10月13日には今年度のJAGDA(日本グラフィックデザイナー協会)新人賞受賞者である色部義昭さん、えぐちりかさん、岡田善敬さん、榮良太さんの4氏を招き、トークショウが和やかな雰囲気の中で行われました。

予定していた展覧会は、折からの台風のため中止となり、展覧会を楽しみにしていた方々には大変ご迷惑をおかけしましたが、トークショウ当日、本学X棟2階に展示された作品を前にその作者である受賞者の説明を直接聞くことが出来たことが学生をはじめとする参加者にとってはとても有意義なひとときでした。

同じく10月19日に始まる週には、姉妹校ブライトン大学から、ウィンドウズ・ビスタの日本語書体(メイリオ)の制作や有名なエドワードジョンストンが制作したロンドン地下鉄の書体のリニューアルするなど著名な活動で知られる河野栄一先生が来日し、講演とワークショップが行われました。

学内外からの参加者に対し、ことにワークショップでは、コンピュータのみに頼らない明瞭な書体をどのように作っていくかを手書きの作業も含め、実地に手を取って指導されました。

デザイン学部長 溝口和夫

後援会補助公開講座実施報告

人間発達学部

本年度も、人間発達学部では、2009年8月8日(土)午後3時から5時まで、愛知県女性総合センター(ウイールあいち)の大ホールにおいて、白梅学園大学の民秋言教授を講師としてお招きして、「新保育所保育指針・幼稚園教育要領からの学び——小学校との連携について考える——」と題する「特別公開講座」を開催しました。

人間発達学部では、2008年4月に「人間発達研究所」を設立し、研究活動の一層の推進とともに「地域に開かれ、地域に貢献する」学部を目指して、各種の事業を実施しているところです。この特別公開講座は、その研究所事業の一つで、本年度も後援会から補助をいただいて実施しました。

保育所と幼稚園では、2009年4月から、新しい「保育所保育指針」と「幼稚園教育要領」が施行されていて、このテーマについての関心度が特に高く、案内・広報と同時に応募、問い合わせがあり、学生その他、広く県内外から、一般の方、保育・教育の関係者など600人近くの方の参加がありました。

講師の民秋教授は、長く保育士養成とその質の向上に腐心され、保育所保育指針の改定作業にも深くかかわって来られた先生で、講演では改定の「裏話」を交えて、保育所保育指針と幼稚園教育要領の大事なポイントや専門用語の意味について、配布資料を使いながら、大変わかりやすく、また、詳しく解説されました。

講演内容の第一点は、今回の改定は、保育所にとっても幼稚園にとっても大きな意味があることが強調されこ

とで、保育所保育指針が「告示化」されたことと幼稚園が行っている「預かり保育」が法的に位置づけられたことの意義などが、配布資料に載っている法令や新旧対照表を使いながら、解説がありました。

第二点は、保育所と幼稚園は、国からそれぞれ別個に「指針」、「要領」として示されており、「保育の内容」については基本的に同じであることが改めて解説されました。幼稚園では「養護」という「生命の保持と情緒の安定」を意味する言葉は使われないが、「生命の保持と情緒の安定を無視して幼児教育はありえない」とし、保育所保育指針の「教育」に関することは「幼稚園教育要領を下敷きになっている」とのお話があり、「健康・人間関係・環境・言葉・表現」という5つの領域は、小学校などの教科に対応するものではなく、子どもの「育ちを見る窓口」であるなど、子どもの育ち(発達)を捉える基本的視点が改めてわかりやすく説明されました。

第三点は「小学校との連携」、「発達の連続性」についてのお話で、幼稚園も保育所も義務教育やその先の教育の「基礎を培うこと」に役割、使命があり、保育所や幼稚園での子どもの育ちについて小学校に伝えることの意味、「情報の共有」を図っていくことの大切さが強調されました。

保育所や幼稚園の保育者を目指す学生にとっては、大切なお話ばかりで、講演中、こまめに資料を参照したり、メモをとるなど講師に真剣に聞き入っていました。

人間発達学部 鈴木岩雄

名古屋芸術大学音楽学部 第37回卒業演奏会

2010年3月4日(木)・5日(金)の両日にわたり、名古屋市中区の三井住友海上しらかわホールにおいて、名古屋芸術大学音楽学部の第37回卒業演奏会が行われました。

卒業演奏会は、出演者にとっては大学卒業までの4年間の学業の成果を示す最後の発表の場です。本年度は、この春の卒業試験で優秀な成績を収めた学生が、初日の4日に15名、二日目の5日に15名(作品発表1名を含む)、合計30名出演し、独奏や独唱で晴れの舞台に臨みました。



指導教員を始め家族や友人の見守る中、緊張しながらも日ごろの演習の成果を存分に発揮していました。

また、優秀卒業論文の発表も同時に行われ、音楽文化創造学科音楽教育選択コースで3名、同学科音楽療法選択コースで4名、同学科音楽ビジネス・ステージマネジメント選択コースで1名、さらに、優秀作品の発表では音楽文化創造学科サウンド・メディア選択コースの2名が選ばれました。



名古屋芸術大学大学院音楽研究科 第12回修了演奏会

2010年3月10日(水)～12日(金)まで3日間にわたり、名古屋芸術大学大学院音楽研究科の第12回修了演奏会が、名古屋市中区の三井住友海上しらかわホールで行われました。

この演奏会は、今春大学院音楽研究科修士課程を修了する院生全員が、オーケストラ・コレギウム・アカデミカ(本学大学院の演奏研究グループで、教員・卒業生などを中心に組織されたオーケストラ)と共演する構成で、独奏・独唱とオーケストラが織りなす色彩豊かな演奏が特色となっています。



三大陸の異なる文化圏で演奏を学んだ異色の指揮者として著名な松浦修氏がオーケストラの指揮を執り、作品発表をはじめ、ソプラノ・テノール独唱、ピアノ・フルート・クラリネット・電子オルガン独奏など各研究領域での熱演が観られました。客席を埋めた聴衆からは惜しみない拍手が贈られていました。

第14回名古屋芸術大学大学院 美術研究科・デザイン研究科 修了制作展

第14回の名古屋芸術大学大学院美術研究科及びデザイン研究科の修了制作展が、3月9日(火)～14日(日)まで、名古屋市民ギャラリー矢田で開催されました。

この春、大学院修士課程を修了する学生たちの専門的研究と研鑽を重ねて制作された作品が一堂に展示されました。

美術研究科美術専攻では、絵画研究(日本画)と絵画研究(洋画)、造形研究(彫刻)及び同時代表現研究の各専攻生が、2年間の集大成である自己表現としての作品を展示。デザイン研究科デザイン専攻は、クラフトデザイン研究、3Dデザイン研究、メディアデザイン研究、ヴィジュアルデザイン研究で、各専攻生の感性と専門分野の知識に裏付けられて表現された作品が展示されていました。最終日の14日には、大勢の関係者が訪れて熱心に鑑賞していました。



『第37回卒業制作展』

卒業制作展委員長 佐藤英治

今年度の卒業制作展は、3月2日(火)から7日(日)までの6日間、愛知県美術館ギャラリー(美術学部/絵画科、美術文化学科 デザイン学部/デザイン学科全コース)、名古屋市民ギャラリー矢田(美術学部/造形科、版画選択コース デザイン学部/クラフトブロック、メディアデザイン選択コース)、名古屋芸術大学 西キャンパス[アート&デザインセンター(美術学部/洋画 デザイン学部/プロダクト&スペースブロック、イラストレーション選択コース)、洋画Zギャラリー(美術学部/絵画科)、X棟和室(デザイン学部/テキスタイルデザイン選択コース)]の3会場において作品展示がされました。また、6日(土)、7日(日)の18時から名古屋駅にあるシネマスコーレにおいて映像作品上映会が行われました。100席以下とはいえ、映画館を貸切り時間を決めて上映するのは初めてのことでしょう。展示会場での放映と比べ、より集中できる施設での作品上映は新しい試みでした。

4会場に分散しての開催は、愛知トリエンナーレ2010の開催の影響で、愛知県美術館ギャラリーの展示室が昨年度より2室減ったことがいちばんの理由ですが、作品の表現形式や形態が多様になったことにもよります。学生の若いエネルギーは、旧来の方法では収まりきらない表現を求めます。美術・デザイン両学部における表現の多様化は、学生の感性を尊重し、自主性にもとづく自由な発想を認めていることの現れと言えるでしょう。時代を敏感にとらえ、理想を追求する学生たちの熱い思いに対して、共に実現のための可能性を探っていきます。展示会場を訪れた人たちに、指導にあたる教員の姿勢も伝えることができたとすれば幸いです。



駅などに貼るポスターの制作にあたって、在學生と卒業生からコンペ形式でアイデアを募集しました。今年度は、齋藤功さん(デザイン学科ヴィジュアルデザイン選択コース研究生)の作品が選ばれました。黄色の背景に、普段の制作に使っている道具を真っ赤なシルエットにしたモチーフを木の形に並べた意匠は、色彩のコントラストが強い印象を与え、効果的なグラフィックとなりました。

昨年同様、情報誌「びあ」に見開きで、卒業制作に取り組む学生への取材を元にした記事広告を掲載したり、恒例となったスタンプラリーにより、できるだけ多くの方に見に来てもらえるよう努めました。作品プレゼントは毎年楽しみにしていただいているリピーターも増えているようで、今年も好評でした。

卒展の期間中には、学内外の講師による講評会や学生のプレゼンテーション(発表会)などいくつかのイベントが開かれました。卒業制作展記念講演「岸田劉生とその時代」は、今年度で退任される浅野 徹教授の最終講義として美術学部で企画されました。愛知県美術館の初代館長として活躍された浅野先生が、ご自身がつくられた場所で最後の講演をされたことは感慨深かったことでしょう。

会場との交渉、搬入・搬出などの運営やそれにまつわるトラブルの処理など色々ありました。学生が主役の卒業制作展ですが、西キャンパス芸術文化交流室の職員はじめ多くの人たちに支えられて開催されていることを改めて気づかされました。

第20回 名古屋芸術大学 生涯学習大学公開講座（報告）

本学生涯学習大学講座も今年で20回を迎え、東西キャンパス合わせて26講座を開講しました。

新たに楽譜の読み方の講座や、ジュエリー制作の講座を開講し、講評のうちに終了することができました。

また、名古屋市生涯学習推進センター主催の「大学連携講座」においても2講座を開講し、多数の受講申込をいただきました。

今後も皆さまの幅広いニーズにお応えできるよう、充実した講座開設につとめてまいります。多くの方々のご参加をお待ちしております。

なお、2010年度の講座につきましては、6月中旬頃パンフレットが完成する予定です。お問い合わせは本学芸術文化交流室までお願いいたします。また、名古屋市との連携講座に関することは、名古屋市生涯学習推進センターまでお問い合わせ下さい。



▲木彫を楽しむ Part XI



▲はじめてのオカリナ



▲体験！リトグラフ

2009年度 名古屋芸術大学 生涯学習大学公開講座

	講座名	受講者数	開催場所	
1	バロック絵画の魅力	10	西キャンパス	
2	シルバーリングと銅製ペンダントの制作	6		
3	エッチング入門	5		
4	人物(着衣)のデッサンと油絵実技	13		
5	やさしい創作折紙	11		
6	Macintosh CG入門！～Adobe Photoshopで簡単デジタルカラージュ制作～	13		
7	はじめての織機ーリジッド機でマフラーを織るー	11		
8	木彫を楽しむ Part XI	12		
9	粘土による造形～テラコッタ～	7		
10	美しい水彩画Ⅲー秋を描く、野と杜と花	29		
11	楽しいピンポン(卓球)	6		
12	子供造形と積み木遊び「和久洋三が提唱するWM(和久メソッド)創造共育」	8		
13	吹きガラスに挑戦！	10		
14	イタリア映画を楽しもう	8		
15	やきもの講座「誰でも出来る型を使った陶芸教室」	12		
16	はじめての日本画	13		
17	体験！リトグラフ～多色刷り石版画で作品を～	11		
19	パソコンを使って簡単な作曲をしてみよう	8		東キャンパス
20	はじめてのオカリナ(初心者向け)	21		
21	オカリナで楽しむ癒しのアンサンブル(初級者向け)	19		
24	インターネットとWordではがき作成	11		
25	いまさら訊けないドレミファソ	8		
26	やさしい心理学(子育てを中心に)	9		
	合計	261		

2009年度 名古屋市生涯学習大学連携講座

	講座名	受講者数	開催場所
1	遊びのデザイン	7	名古屋市女性会館
2	連弾によるピアノコンサートとトーク(シリーズ講座)	150	
	合計	157	



▲吹きガラスに挑戦！



▲はじめての織機

2009年度 ブライトン 大学賞

本学の姉妹校の一つ、イギリスのブライトン大学による「ブライトン大学賞」の授賞式が3月5日(金)午後4時30分より、名古屋東急ホテルにて行われました。ブライトン大学よりジュリ・ケルミック教授とキャサリン・モリアリティ教授が審査員として卒業制作展の3会場をご覧になり、各受賞作品を決定しました。受賞者には各受賞作品の講評と共に副賞が授与されました



▲受賞者の皆さん

No	賞	科・コース	氏名	作品名
1	1等賞	デザイン学部 イラストレーション	鈴木 友美	モモとABC
2	2等賞	美術学部 工芸(ガラス)	前田真喜子	団欒 ～暖かい空気～
3	3等賞	デザイン学部 ヴィジュアルデザイン	柴田 光子	save the world
4		デザイン学部 スペースデザイン	川合 泰平	TOIROーISU
5	佳作	デザイン学部 ライフスタイルブロック	磯野 祐子	ぱくぱあく 磨いて楽しいわらじスタイル
6		デザイン学部 インダストリアルデザイン	板 彰子	おばあちゃんのためのキャリアカート
7		美術学部 造形科	伊藤かおり	立ち上がる形
8		美術学部 工芸科(陶)	大久保理紗	幸福の匂い
9		デザイン学部 テキスタイルデザイン	石原 千勢	無機物ルネッサンス
10		美術学部 絵画科(日本画)	永谷 妃美	魅せられて



◀鈴木友美さん
◁モモとABC▷



▲川合泰平さん < TOIROー ISU >



▲柴田光子さん < save the world >



▲前田真喜子さん < 団欒 ～暖かい空気～ >

慶南大学校 グローバル ハンマ プログラム に参加して

音楽学部 音楽文化創造学科
音楽療法コース 2年 寺田文香

さまざまな国の学生たちと国境を越えて仲良くなりました。伝えたいことは山ほどあるのに英語や韓国語が喋れないもどかしさを感じました。でも言葉がわからなくても、一生懸命に自分の気持ちを伝えようとすれば言葉の壁なんてないし、相手に伝えることがわかり、いろいろな方達とすぐに打ち解けることができました。

私はこの研修を通じて、言葉では伝えきれない大きな宝物を見つけました。それは韓国語や韓国の伝統文化の体験したことも大切な思い出です。もう一



つに知らない方達と3週間ともに過ごし、友達の大切さや出会いの大きさを学びました。

『一期一会』の意味を心からわかったように感じます。家族も親しい友人もいない、頼るのは自分自身。遠い異国の地で私自身も大きく成長できるチャンスになりました。

このGLOBAL HANMA で学べたことを心から誇りに思います。そして自分自身の糧にし、また機会があったら韓国へ行きたいと思います。

最後に無事に楽しめて帰って来れたことに感謝し、チャンスを下さった皆様方に御礼申し上げます。ありがとうございました。

グローバル ハンマプログラムの 内容

(2009年度の場合)

言語コース

韓国語、文化及び習慣を学ぶ。学習は毎日午前中行われ、語学能力別クラスに分けられる。教員は全てプロとしての資格を持つ。

韓国の文化及び 習慣コース

教室以外に社会参加の体験を通じて学ぶ。(観光旅行 史跡めぐり ハイキング 映画鑑賞等)

費用 本学学生は2名まで費用は免除される。(姉妹校提携校のため)
本人負担は往復の交通費及び個人的費用のみ。

募集時期 4月下旬～5月上旬、国際交流センター掲示板にて

名古屋芸術大学音楽学部 同窓会総会・卒業生懇親会

東キャンパス 演奏課 課長 太田成夫
(7期 声楽科 卒業)

去る2009年10月25日(日)に名古屋ガーデンパレスにおいて、音楽学部同窓会総会と、同窓会及び音楽学部共催の「卒業生懇親会」が開催されました。

総会は竹内雅一理事長を議長に、平成21年度事業報告・決算報告、平成22年度事業計画・予算案を審議し、いずれも原案どおり承認されました。

総会閉会后、会場を移しての「懇親会」は約180名の参加者を迎え、今回も盛会となりました。山田正文会長の挨拶でパーティーが始まり、歓談の輪がいくつもできるなか、在学生による金管五重奏の演奏や、竹内理事長の進行によるビンゴ大会でおおいに盛り上がりました。

また今回のゴールデンブライズは、音楽事務所「OFFICE リラン」代表の米濱光代さん(21期音楽教育学科卒業)が、受賞されました。

恩師や友人との久しぶりの再会ということもあり、パーティー終了後もロビーには尽きることのない話し声があふれていました。



名古屋芸術大学美術学部・デザイン学部 同窓会総会・懇親会報告

美術学部 日本画コース 准教授 荒木紀江
(12期 絵画科 日本画コース 卒業)

去る2009年11月29日、第22回美術・デザイン学部同窓会総会、懇親会が愛知芸術文化センター内カリフォルニア料理レストラン「ウルフギヤング・バック」に於いて開催されました。

今回はオープンな雰囲気のある会場で、同窓生同士、年代を超えて、より交流を深め、情報や意見交換のできる時間が取れるよう考慮してみました。

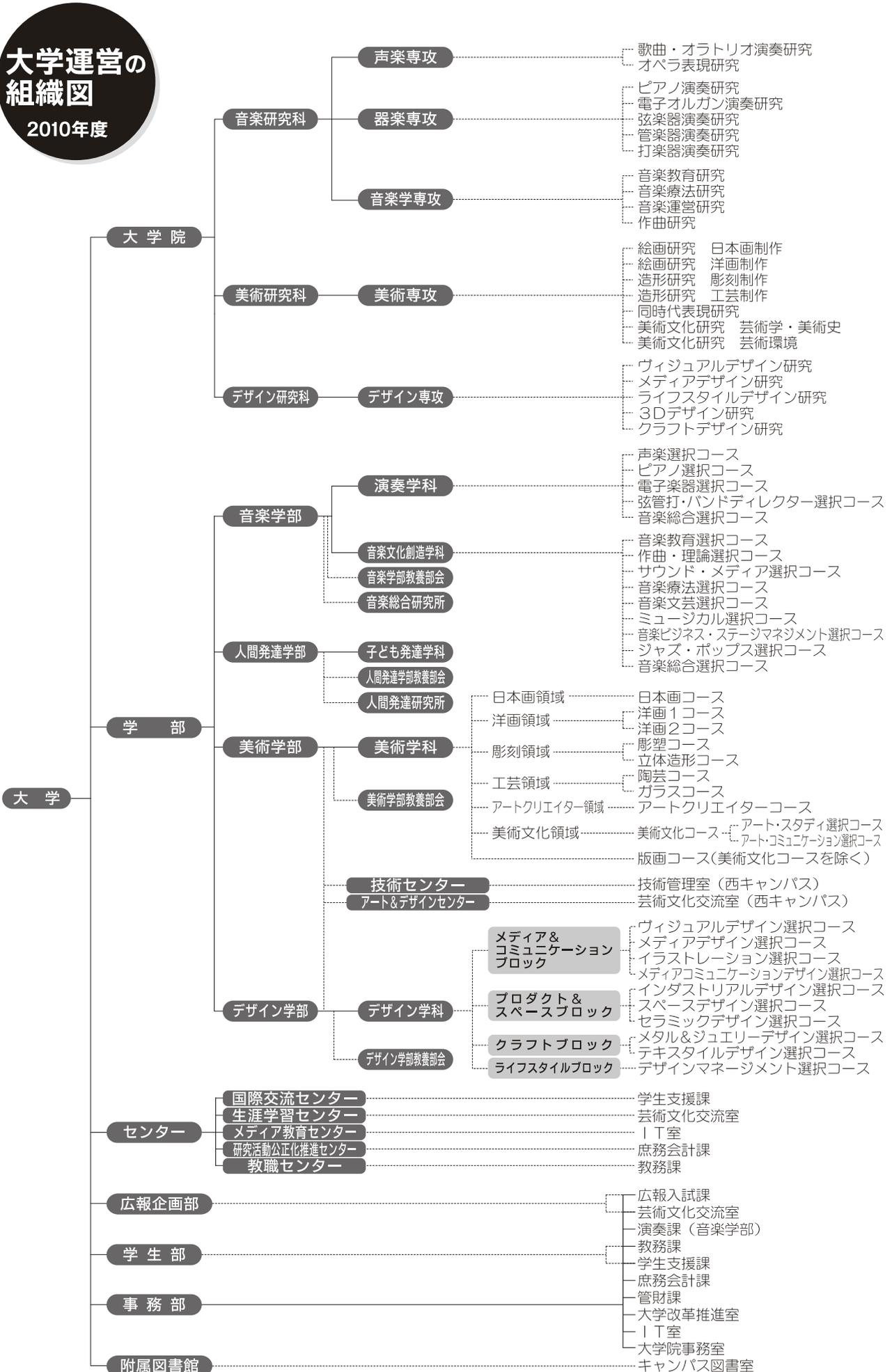
参加者は予想を上回る240名。学長を始め先生方も多数参加くださり、また各科ごとの先生より同窓生への暖かいメッセージもいただき、大いに盛り上がりました。恒例のビンゴは時間を短縮しましたが、生演奏そしてゴールデンブライズ受賞者の紹介等充実した会になったと思います。

同窓生もこれまで36期となり、ずいぶん時代の経過を感じます。それぞれの活躍が、少しでも多くの同窓生や学生とのつながり、ますます名古屋芸術大学が発展していくよう同窓会からも応援したく思います。



大学運営の組織図

2010年度



後援会授業料貸付事業

昨今の底の見えぬ不況の中で決して安いとは言えない芸術系大学の授業料は、家計を直撃しているのではないかと思います。こうした状況の中で、保護者が亡くなられたり病気になられたり、失業された家庭は大変だと思います。このような家庭の学生諸君の少しでも助けになればと考えて始められたのが、後援会の授業料貸付事業です。1993年にこの事業が始まってから、現在までに70数名の学生がこの事業の恩恵を受けています。

後援会員の皆さんが納められた会費を、この事業の基金としているため、いくつかの条件がありますが、次の貸付規程を読まれて、後援会の授業料貸付事業を活用していただけたらと思います。申込受付窓口は、各キャンパス教務学生課となっています。気楽に相談してみてください。

名古屋芸術大学後援会学費資金等の貸付規程

（目的）

第1条 名古屋芸術大学後援会(以下「後援会」という。)が行う学生の福利厚生事業の一環として、家計急変等により学費の納入が困難な学生に対し、後援会が学費を貸し付けることにより修学を援助することを目的とする。

（定義）

第2条 この規程により学費の貸付を受ける者を、名古屋芸術大学後援会学費貸与生(以下「貸与生」という。)と称する。貸付する学費を名古屋芸術大学後援会貸付金とする。

（資金）

第3条 学費貸付金は次の資金をもってこれにあてる。

- (1) 後援会学費貸付口座預金
- (2) この規程に基づく返還金
- (3) 寄付金・その他の収入

（貸付額）

第4条 該当学年の学生納付金半期分以内とする。

- 2 貸付金は無利息とする。
- 3 未返済金がある者に対しては、貸し増しは行わない。

（貸付方法）

第5条 学費貸付は、大学授業料口座への振込みによって行う。

（審議）

第6条 貸与生及び貸付額の決定に関しては、学生部長が大学の全学教務学生委員会の審議を経て、後援会会長に推薦する。

（貸与生の決定）

第7条 貸与生の決定は、後援会会長が行なう。

（貸与生の選考基準）

第8条 貸与生の選考基準は、以下に基づいて選考する。

- (1) 1年以上継続した本会会員の子弟であること。
- (2) 家計急変等のため本学に修学することが、特に困難であること。
- (3) 応募者の属する世帯の1年間の総所得金額が独立行政法人日本学生支援機構の収入基準以下であること。
- (4) 修学に十分耐うるものと認められること。

（申請手続）

第9条 学費貸付を希望するものは、次に掲げる書類を後援会会長に提出しなければならない。

なお、手続は学生部教務学生課を窓口とする。

(1) 後援会貸付金借用願

(2) 貸付金返済計画書

(3) 学費貸付希望者の所属する学科長の推薦書

(4) 学費貸付希望者の属する世帯の1年間の総所得金額を証明する書類。

（借用手続・借用証書）

第10条 学費貸付決定者は、次に掲げる書類を後援会会長に提出しなければならない。

- (1) 借用証書(借用願と同じ保証人および連帯保証人の連署を要する)
- (2) 貸付金返済計画書に基づく同意書
- (3) 銀行口座振替依頼書(自動送金サービス用)(学籍を離れる時に提出するものとする)

（返還及期間）

第11条 貸付金は、学籍を離れてから3年以内で返還しなければならない。ただし、借用願出の際に虚偽の記載があった時は、直ちに返済するものとする。

- 2 返還方法は、一括返済または元金均等割とする。
- 3 貸付金の返還は、いつでも繰り上げて返還することができる。
- 4 返還は、学生部教務学生課を窓口とする。

（返還猶予）

第12条 貸与生が傷病・その他やむを得ない事由によって返還猶予を願い出たときは、相当と認める期間猶予することができる。

（権限委任）

第13条 この規程に基づく学費貸付金の貸付手続き及び返済收受等の一切の権限を学長に委任するものとする。なお、この規程で疑義が生じたときは、会長と学長が協議のうえ決定する。

（改廃）

第14条 この規程の改廃は、後援会の総会の議を経て会長が行なう。

附則

- 1 この規程は昭和61年7月1日から適用する。
- 2 この規程は昭和63年4月1日から適用する。
- 3 この改正規程は平成16年4月1日から適用する。
- 4 この改正規程は2005年(平成17年)4月1日から適用する。

名古屋芸術大学後援会会則

- 第1条 本会は名古屋芸術大学後援会(以下「本会」という)と称し、事務局は名古屋芸術大学内におく。
- 第2条 本会は名古屋芸術大学の教育方針に基づき、大学諸活動の後援を目的とする。
- 第3条 本会は前条の目的を達成するために、次の事業を行う。
 (1) 学生の課外活動への援助と学生の福利厚生に関する援助。
 (2) 大学の正常な運営への寄与と、保護者の希望を大学に反映させる活動。
 (3) その他本会の目的達成に必要と認める事業。
- 第4条 本会は名古屋芸術大学学生の保護者または、これに代わる者及び役員会が認めた本学卒業生の保護者をもって組織する。
- 第5条 本会に次の役員をおく。
 会長1名、副会長4名、監事1名、会計監査2名、書記2名、会計1名
- 第6条 本会の役員選出は次の方法による。
 (1) 役員は総会において会員の中から選出する。
 (2) 役員の任期は1カ年とする。但し再任は妨げない。
- 第7条 本会役員の任期は次のとおりとする。
 (1) 会長は会務を統括し、副会長は会長を補佐、会長事故ある時はその代理をする。
 (2) 監事は会務を監査する。
 (3) 書記、会計は会長に委嘱された会務を行う。
- 第8条 本会の会議は総会、役員会とし、議長はその都度選出する。
- 第9条 定期総会は原則として年1回、5月に会長が招集する。必要と認めた場合臨時総会を開くことができる。
- 第10条 総会は次の事項を審議・決定する。
 (1) 事業の実施、収支決算及び予算に関すること。
 (2) 会則の改定、会の解散に関すること。
 (3) 役員の選出、その他の役員が必要と認めた事項。
- 第11条 総会は出席会員で成立し、議事は出席会員及び出席者に委任した者の過半数をもって議決する。
- 第12条 役員会は出席役員で成立し、会長が招集、議事は出席役員の過半数で議決する。役員会は総会への提案と決定事項の実施、運営にあたる。
- 第13条 本会に顧問をおくことができる。顧問は役員会の承認により、会長が委嘱し、会長の要請により各会議に参加し意見を述べる。
- 第14条 本会の経費は、会費及び寄付金をもってこれにあてる。会費は入学時16,000円、2年次以降年額10,000円とする。
- 第15条 本会の会計年度は4月1日より翌年3月31日までとする。
- 第16条 本会則の運営に必要な事項は、役員会の議を経て会長が定める。
- 附則 1 本会則は昭和62年6月22日から実施する。
 2 本会則は昭和63年6月12日一部改正し実施する。
 3 本改正会則は平成10年5月31日から実施する。

名古屋芸術大学後援会の弔意に関する内規

- 1 学生が死亡したときは、担当者からの申請に基づきその家族に対し、弔慰金1万円を給付する。
- 2 保護者(父・母)が死亡したときも、担当者からの申請に基づきその家族に対し、弔慰金5,000円を給付する。
- 3 役員2親等血族および1親等の姻族が死亡した場合は、弔慰金として5,000円を給付する。
- 4 弔慰金の給付については、事由の発生から1年以内に後援会事務局に申請されたものに限る。
- 5 この内規により処理できない場合は、会長の判断により執行し役員会に事後報告する。

附則1. この内規は、慣例的に実施していたものを平成15年4月1日付けで明文化する。

附則2. この改正内規は、2006年6月1日より施行する。

名古屋芸術大学後援会顧問の委嘱に関する内規

- 1 名古屋芸術大学の顧問は、原則として、役員会の承認に基づき、会長、副会長経験者の中から会長が委嘱する。
- 2 顧問の任期は、会長経験者は15年、副会長経験者は10年とする。
- 3 この内規に基づき処理できない場合は、会長の判断により執行し役員会の承認を得るものとする。

附則 この内規は2005年(平成17年)4月1日から適用する。

せせらぎ 会員募集

問い合わせ先 会長 長江政則
〒480-1214 瀬戸市上品野町927
電話 0561-41-1655
携帯電話 080-3621-7706

合唱をやることには次の効果があります。『ハーモニーを作ることで、顔の表情が豊かになる。』『交感神経に働きかけ、脳によい刺激をあたえる。』日本テレビの「世界一受けたい授業」という番組で講師の青島広志氏がおっしゃっていました。

まだあります。『姿勢が良くなる。』『声も良くなる。』『ストレス発散にもなる。』なるほど、そんな効果があるなら合唱万歳！

「せせらぎ合唱団」には子弟が芸大生現役の方、はるか以前に卒業してしまった方等、さまざまな老若男女が参加し、美声をはりあげています。なにもむ

ずかしい曲には挑戦しません。誰もが一度は子供のころに歌ったことのある文部省唱歌をおもに練習しています。どうぞ、一度練習をのぞいてください。お待ちしております。

(吉原征生)

練習日 毎月第3日曜日(都合により変更あり)
時間 12時～13時30分
場所 西キャンパス体育館(会議室)
指導 江端智哉 先生
山田正丈 先生

絵画グループ 壁の華

このところ、壁の華は現代美術に熱中して先生のパワーにいつのまにかその気にさせられています。

画布にむかって無心に遊ぶ……デッサンもあつというまに時間がすぎてしまう程です。

芸術大学に学ぶ子供の親は、アートへのかかわり方が柔軟かつポジティブでユニークな気がします。断続的ではありますが、長く続けてこられたのもこうした仲間の方々のおかげです。

”わたしの絵”描いてみませんか。

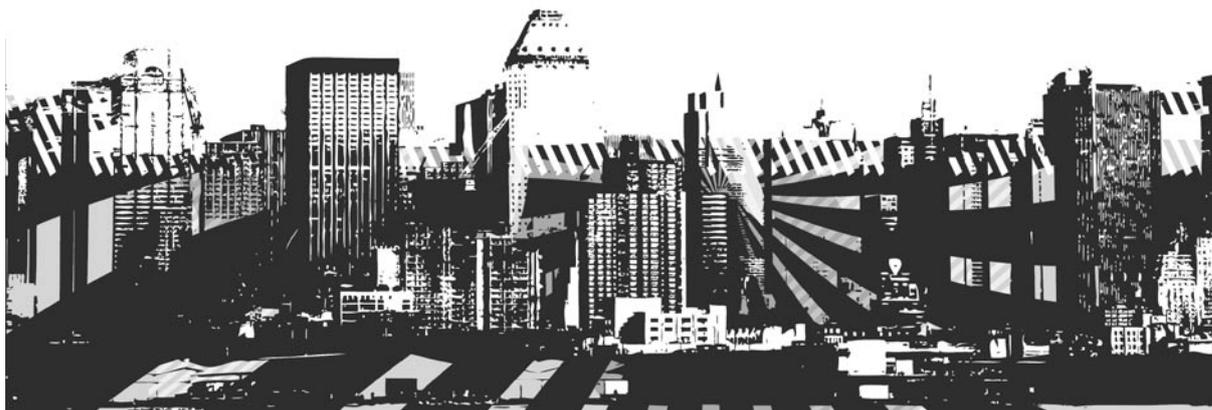
(古田悦子)

活動状況

- 例会
日時：原則毎月第3日曜日 午後2時～4時
場所：西キャンパス体育館
(体育館会議室／彫刻棟教室他)
- グループ展
日時：4月27日～5月2日
場所：名古屋市中区役所 市民ギャラリー
- スケッチ会 10月予定
- 懇親会(年2回)

入会希望者その他『壁の華』に関する連絡先

- 会長 杉浦重太
〒471-0847 豊田市千足町比丘尻953-31
電話 0565-33-6347
- 運営委員長 森部みや子
〒492-8075 稲沢市下津町西下町58
電話 0587-32-2814



■「木祖セミナーハウス」をご利用ください

所在地：〒399-6203 長野県木曾郡木祖村大字小木曾4793

電話：0264-36-2570

アクセス：①マイカー利用—中央自動車道中津川インターより国道19号で90分走行、藪原より村道15分

②公共交通機関利用—JR中央西線藪原駅下車

バス利用25分「五月日(ごがつひ)」下車徒歩10分、

またはタクシー利用10分(要予約TEL. 0264-36-2403やぶはらタクシー)

利用できる期間：通年(ただし、12月30日～1月2日は休業)

利用できる方：①名古屋芸術大学ほか学校法人名古屋自由学院傘下の学校の学生・園児

②学校法人名古屋自由学院の教職員・その家族

③①の学校の卒業生・その家族

④その他特に使用が認められた方

(①の学生・園児の家族など)

(③④の方は、①②の方の紹介が必要です。)

利用料(食事代は含まない)：学生 1,000円

園児 500円

教職員 1,500円

その他 2,000円

(同伴の3歳以上小学生以下は1,000円、2歳以下は無料)



食事：利用申し込みの際に予約してください。(料金は夕食1,500円、朝食500円)

利用申し込み手続き：下記申し込み先へ、電話で仮予約をしてください。その後の手続きは、そのときにご説明します。

付近の観光スポット：「こだまの森」(テニスコート・プール・パターゴルフ・ピクニックガーデン・多目的運動場・バーベキューハウス・巨大迷路・溪流釣りなど)、やぶはら高原スキー場、木曾福島、上松、寝覚の床、野麦峠、上高地、白骨温泉、乗鞍高原など

問い合わせ先・申し込み先：学校法人名古屋自由学院法人事務局総務部総務課(TEL. 0568-24-0311)

編集後記

世間ではお笑いブーム。テレビではどの番組もお笑い番組ばかり。そういえば以前にもお笑いブームってありましたよね、20年くらい前に。でも反対に景気は依然と回復しません。暗い話はずきませんが、明けない夜はありません。時代は繰り返す?

経済成長は無理かもしれませんが、私たちも成長しなければなりません。人間は成長していく生き物だから、身体もですが、心も、子供たちを良い方向へ導いてあげることも大切な私たちの仕事です。

私たちの大学も今春多くの卒業生が巣立ちました。また多くの新入生を迎えます。この大学で子供たちと一緒に私たち親も成長していくのも良いかもしれませんね。

“芸は身を助ける”のだから…。

広報委員長 磯野郷子

◆発行 名古屋芸術大学後援会

〒481-8535

愛知県北名古屋市徳重西沼65番地

TEL 0568-24-0325 FAX 0568-24-0326

◆編集 名古屋芸術大学後援会 広報委員会

◆表紙デザイン

本学デザイン学科学生 武藤理恵子

◆封筒デザイン

本学デザイン学科卒業生 福見光洋

◆発行日 2010年(平成22年)3月31日

